

アース製薬株式会社



CSR報告書

Corporate Social Responsibility Report

2019



Act For Life

地球を、キモチいい家に。



アース製薬株式会社



FSC®が定める責任ある森林管理に基づき認証された森林からの原材料とその他管理された原材料からつくられたFSC認証紙を使用しています。



石油系溶剤を含まないNonVOCインキを使用し大気汚染の防止に配慮しています。



印刷時に有害な物質を含む浸し水が不要な「水なし印刷」を採用しています。

2019年6月発行



アース製薬の経営とCSR

アース製薬の経営理念は、「^{いのち}生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」ことです。
 経営理念を実現することがアース製薬のCSRそのものであり、
 人類共通の世界目標であるSDGs(持続可能な開発目標)に貢献できると考え、経営の中で実践するよう努めています。

認識している社会課題

保健衛生(感染症)

- ・温暖化に伴う虫の生息域拡大による感染症リスクの増大
- ・グローバル化に伴う人・モノの移動がもたらす疾病・感染症リスクの増大

保健衛生(口腔内環境)

- ・口腔内環境を起因とした疾病の存在

人口動態

- ・超高齢社会の到来

環境

- ・大量生産・大量消費の経済社会における廃棄物の増加
- ・化学物質が人の健康や生態系に与える影響
- ・気候変動と自然災害リスクの増大

労働環境

- ・長時間労働による社員の生活の質低下
- ・ジェンダー間にある不平等の存在と平等な機会創出の必要性

経営理念

^{いのち}生命と暮らしに寄り添い、
地球との共生を実現する。

We act to live in harmony with the Earth.

アースポリシー・アースバリュー

【アースポリシー】

お客様目線による市場創造
Creating a Market with customers

熱意・創意・誠意

Passion・Innovation・Integrity

すぐやる・必ずやる・最後までやる

Momentum・Achievement

【アースバリュー】

全員参画

One Earth

コミュニケーション

Open communication

人がすべて

Diversity

アース製薬の強み

製品開発

オープンな雰囲気と最新の研究設備で独自性の高い製品を開発

生産管理

最適な生産体制と高度な管理体制で常にベストクオリティの製品をお客様のもとへ

営業戦略

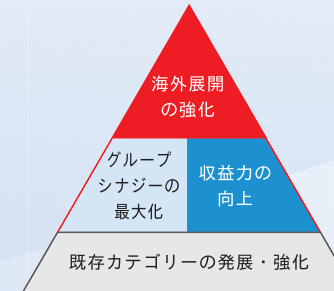
業界屈指の営業部員数を活かし、お客様目線での独創的な売り場づくりを可能に

グローバル戦略

緻密な市場調査による地域密着型のビジネスモデルで、全世界にアース製品をお届け

中期経営計画

2016年～2020年の中期経営計画の重点テーマとして、既存カテゴリーの発展・強化を基本としながら、さらなる成長に向けて、「海外展開の強化」、「グループシナジーの最大化」、「収益力の向上」を掲げています。中でも海外展開の強化を最重要課題として取り組んでいます。



経営理念の実現

^{いのち}生命と暮らしに
寄り添い、
地球との共生を
実現する。

SDGsへの貢献



注力するCSRテーマ

保健衛生(感染症)

虫ケア用品を通じた虫媒感染症撲滅への貢献(SDG 3.3)



保健衛生(口腔内環境)

オーラルケア用品の普及を通じた口腔衛生への貢献(SDG 3)



環境

廃棄物削減に向けた季節製品の返品削減(SDG 12.5)



製品ライフサイクルを通じた環境・健康上適正な化学物質の管理(SDG 12.4)



・工場、オフィス、物流におけるCO₂排出量の削減(SDG 13.1)



・自然災害などに対する事業のレジリエンスの強化(SDG 13.1)



労働環境

働きがいのある仕事と職場の創出(SDG 8.5)



ダイバーシティの推進(SDG 5.1/5.5/8.5)



CONTENTS

01	アース製薬の経営とCSR	15	〔環境報告〕 Environment 地球と共生するために
03	トップメッセージ	21	〔社会性報告〕 Social 社会と共生するために
05	社会課題と社会のニーズと対話したアース製品の流れ	29	〔ガバナンス〕 Governance 信頼を得るために
07	【特集1】感染症予防に向けた虫ケア用品	32	第三者意見
09	【特集2】廃棄物の削減に向けて	33	編集方針、会社概要、基本データ
11	アース製品のCSR		
13	CSRマネジメントデータ		



いのち 生命と暮らしに寄り添い、 地球と共生しながら SDGsへ貢献します

アース製薬株式会社
代表取締役社長

川端克宜

気候変動の影響が 顕在化する社会に向けて

2018年は豪雨、酷暑、台風などの天候不順の影響により、国内の虫ケア用品市場は過去10年で最低水準に冷え込んだ年でした。気候変動などにより、事業環境の変化が激しくなる中においても、自社が存続し、安定的な成長をするために、気候変動が経営に及ぼすリスクと機会の両面を確認して進めていく必要性をあらためて認識しました。事業においては、国内虫ケア用品への収益依存を緩和し、オーラルケア用品、入浴剤といった日用品のさらなる成長と、園芸やペット用品といった期待カテゴリへの投資を進めることで、安定的な経営基盤を構築していきます。

気候変動は地球環境に大きな変化をもたらし、人間

社会や自然環境にさまざまな影響を及ぼすことが懸念されています。中でも虫の生息域の拡大、降水の増加に伴う蚊の発生を起因とする感染症の拡大は、虫ケア用品を扱う会社として取り組むべき社会課題です。虫ケア用品は、一般的にはいわゆる生活用品のカテゴリになりますが、「命に関わる製品である」という認識のもとに、事業を通じて虫媒介感染症の撲滅に貢献していきます。

「感染症対策」「環境」「働き方」—— SDGsが問いかける課題に対応

わたしたちは時代とともに変化する生活に合わせて、人々に役立つ、使いやすい製品を提供してきました。人口動態の変化やグローバル化とともに社会課

題が深刻化し、社会全体で取り組む機運が高まる中、2015年に提示された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、私たちの経営理念「いのちと暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」とも合致しているとの認識のもと、達成に貢献できるよう取り組みを進めていきます。

とりわけ、「感染症対策」「環境」「社員」に関わる目標3「すべての人に健康と福祉を」、5「ジェンダー平等を実現しよう」、8「働きがいも 経済成長も」、12「つくる責任 つかう責任」、13「気候変動に具体的な対策を」の目標を重視しています。

感染症対策

世界には、虫媒介感染症で苦しんでいる人々がおり、そこに注力するのはわたしたちの役割だと考えています。マラリア、デング熱などの感染症が特に深刻なASEANは、蚊の駆除に対するニーズが高い地域であり、私たちが昨今力を入れている海外展開の中心地域です。地域の人々と向き合い、共に歩むためにも各国の状況に応じた現地に最適な高品質の商品を届けることと、予防のための正しい知識の普及を通して、虫媒介感染症対策に貢献していきたいと考えています。

環境

「廃棄物削減への貢献」については、返品が出やすい季節製品を取り扱っている日用品メーカーとして、積極的に取り組むべき課題であると認識しています。

ここ数年かけて取り組んできた返品削減は、おかげさまで業界内でのご理解が深まってきました。返品削減は、環境負荷の低減にも、廃棄費用の削減にもつながるため、引き続き注力します。

2018年は、従来から取り組んでいる3R(リデュース：減量、リユース：再利用、リサイクル：再生)の中でも、容器の環境負荷低減の取り組みが進んだ年となりました。素材メーカーとのパートナーシップ、(株)バスクリンとの技術協力を通して、入浴剤「バスロマン」の容器を金属缶から再生パルプ紙に変更しました。また、2019年からは、環境省の3R推進事業「Re-Style」にパートナー企業として参加しています。このような活動を通じてお客様の持続可能な消費行動の推進に貢献したいと考えています。

社員

企業の持続的な成長の支えは何よりも社員であると考えています。社員が最大限の能力を発揮できるよう

に、仕事に主体的に取り組める環境整備が重要です。2019年からは在宅勤務制度を導入しました。ライフスタイルの変化に対応しつつも、社員が自律して働き続けられるような制度を、柔軟に構築し提供していく必要があります。社員の声をもとに引き続き環境整備を進めていきます。

また、アース製薬は製品開発から営業に至るまで「徹底的なお客様目線」を貫くことを大事にしています。お客様に製品を買っていただき、使いやすいことに感動して笑顔になってもらい、また買っていただけるように、「お客様目線」を徹底していこう、と社員に伝えています。今後も、プロダクトアウトの製品ではなく、お客様目線の技術開発を進め、付加価値の高い製品を上市できるよう努めます。

東京2020オリンピック・ パラリンピック競技大会、 そしてその先の未来に向けて

オフィシャルパートナーとして参画している東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、日本を代表する虫ケア用品メーカーとして「2020の夏も、アースが守る。」ことを目指しています。虫媒介感染症は、人が集まる時、人の移動が多い時、海外への往来が増える時にリスクが高まるため、2020年に向けて日常生活において虫から身を守る行動が広まるよう、「虫ケアステーション」の設置や小学校への出前授業などの虫ケア啓発活動を進めているところです。

社会が大きく変化する今、100年先も成長し続け、皆様に愛される企業であり続けるために、社員一同、チャレンジ精神を持って変化に対応し続けていきます。



社会課題と社会のニーズと対話したアース製品の流れ

アース製薬は、創業以来「人々の生活に役立つ、使いやすい製品を」との思いをベースに、ユニークで愛される製品を生み出してきました。

その背景には、社会課題があり、お客様のニーズ変化との対話を大切に続けてきた歴史があります。

これからもさまざまなステークホルダーの皆様と新技術を活用して虫媒介感染症の減少につながる虫ケア用品だけでなく、家事・介護の負担といった社会課題の解決につながる製品を展開し、

「地球を、キモチいい家に。」のローガンを実現していきます。



1929
家庭用殺虫剤「アース」発売
家庭の衛生環境が整っていない当時、家庭では、ハエや蚊などの害虫に悩まされていました。「蚊帳(かや)」や「蚊とり線香」などは普及していましたが、直接駆除するには噴霧タイプが必要と考え開発されました。

1973
ゴキブリ捕獲器「ごきぶりホイホイ」発売
昆虫をトリモチで捕っていたことをヒントに箱の形状や粘着力にこだわって開発し、箱ごと捨てる製品として消費者の不快を除きました。

1964
粉末入浴剤「バスロマン」発売
日本は高度成長期。各家庭に風呂が普及しはじめ、入浴剤の需要が高まってきた中、「美容浴剤」と銘打ち発売されました。

1978
くん煙剤「アースレッド」発売
ゴキブリ駆除に最も効果的な駆除剤だったくん煙剤は、煙が多過ぎて火事と間違われる、部屋が汚れるなどの課題がありました。アースレッドシリーズはそういった課題を解決した製品として発売されました。

1987
洗口液「モンダミン」発売
1980年頃、海外ではすでに生活習慣になっていた洗口液を日本に導入しようと、日本人の味覚に合わせて開発しました。



1994
虫よけ剤「サラテクト」発売
週休2日制が定着しはじめ、家族で楽しむアウトドア・レジャーの機会が増えました。従来の虫よけ剤にパウダーを配合し、汗にも強く、効果時間も延長した忌避剤の開発に成功しました。

1996
ハエ蚊用エアゾール「アースジェット」発売
1990年代になると室内に侵入するハエや蚊が激減し、部屋全体の駆除よりもハエ・蚊の直撃駆除というニーズが高くなりました。



2015
発泡入浴剤「温泡 ONPO」発売
2014年にグループ化した白元アース(株)の技術協力のもと、入浴剤市場の約35%(自社調査)を占める発泡入浴剤にアース製薬が参入。強い発泡力で、すばやく香りが広がります。

1997
ゴキブリ用エアゾール「ゴキジェットプロ」発売
1997年になって承認された超速効成分イミプロリン配合の「ゴキジェットプロ」を発売。目の前でゴキブリを秒速ノックダウンさせることが可能となりました。



2016
消臭芳香剤「スッキーリ! Sukki-ri!」発売
従来の吸い上げ方式の置き型消臭芳香剤に見られる液残りや香りが長続きしないというお客様の不満を解消し、最後の一滴まで残さず消臭芳香効果を発揮します。

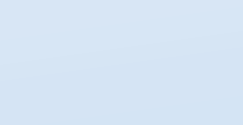


2017
歯科専売品「モンダミンプロケアα」発売
世界的に生活習慣病やそのリスクのある人口が増加しています。歯と口の健康には、口腔内環境の向上、口腔機能の維持、生活習慣病の発生の予防が大切です。「モンダミンプロケアα」を通じて歯科医療によるプロフェッショナルケアと家庭でのホームケアをつなぐファシリテーターとして、キモチいいお口環境づくり、生活習慣病予防の重要性を歯科医療従事者とともに伝えます。



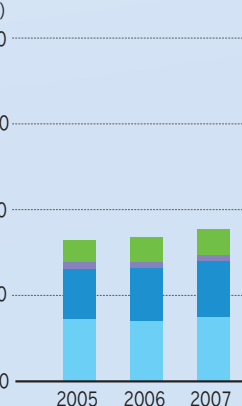
2017
衣類防虫ケア「natuvo」発売
オーガニックへの関心が高まる中、「natuvo」は天然成分100%のうち、無農薬栽培されたオーガニック成分を75%配合するなど原材料の調達に配慮。子ども服や肌が弱い人、薬剤に敏感な人の衣類に安心して使用できます。

2018
LINE ガーデニングのお悩み解決ホットラインを開設
ガーデニング人口は増加していますが、園芸作業や植物を育てるにあたり、手軽に相談できるサポートシステムが不足していることから、LINEにて、「ガーデニングのお悩み解決ホットライン」を展開しています。おかげさまで、ユーザー数は約80,000人(2019年5月時点)、月間平均相談数は1,500人になりました。

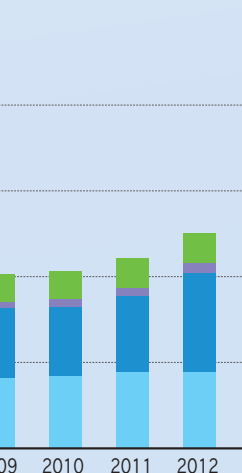


2018
液体ハミガキ「モンダミンNEXT 歯周ケア」発売
生活習慣病の予防は「健康日本21*」に取り上げられているように健康課題と認識されています。お口の健康は、全身の健康につながります。いつまでも健康な歯と歯ぐきを保つために、早期から口腔ケアをする必要があります。モンダミン初の歯周病ケアができるホームケア液体ハミガキを発売しました。

2019
蚊捕獲機「蚊がホイホイ Mosquito Sweeper」発売
日本でも蚊が媒介するデング熱やジカ熱などの感染症対策が問題となっており、蚊に対する危機意識が高まっています。一方、お子様やペットがいるご家庭を中心に殺虫成分不使用の蚊対策商品を求める声が増えてきました。アース製薬は、東京理科大学 藤嶋昭 名誉教授とユーヴィックス(株)が共同開発した光触媒技術によって発生する二酸化炭素と、当社が独自に開発した特殊誘引剤の2つの機能で蚊を誘引して捕獲する屋内用の蚊の捕獲機を開発しました。



2019
介護用品「ヘルパータスケ」ブランドで介護者の応援を開始
日本では高齢化率(65歳以上の人口割合)が2030年には31.2%を占めると見込まれています。“ひとを助けるあなたを、助ける。”をコンセプトに介護を頑張る方を応援する介護用品ブランド「ヘルパータスケ」を立ち上げました。口腔ケア、排泄臭対策、除菌対策の9品目を開発しています。
出典：平成30年版高齢社会白書(内閣府)



アース製薬は、「殺虫剤」の呼称をやめて、「虫ケア用品」にしました。

今まで「殺虫」という文字の印象だけで、「毒性が高そう」という誤解を生んできました。わたしたちが提供している商品の目的は、「虫を殺す」ことではなく「人を守る」ことであり、この誤解により、人々がデング熱やジカ熱などの予防への適切な虫対策がおろそかになってしまふことは何としても避けたいのです。

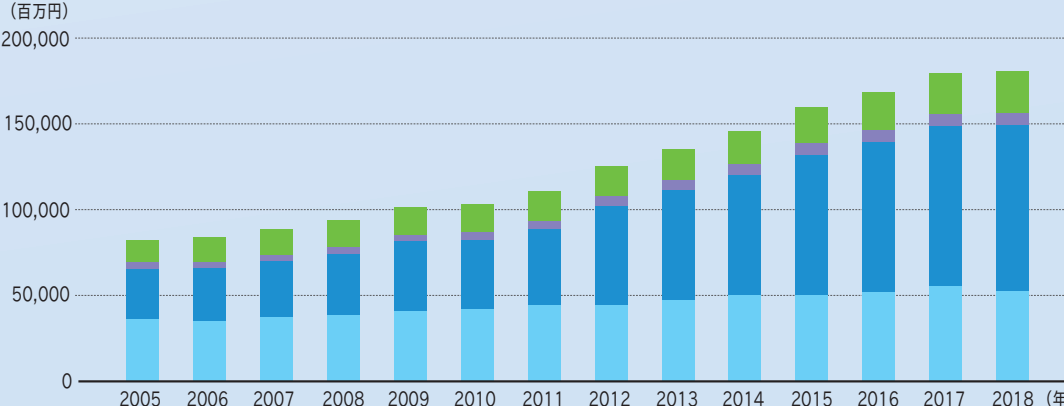
呼称変更にあたっては、安全性の高い商品だと正しく伝えること、商品をイメージしやすく呼びやすいネーミングであること、感染症予防にとって重要な商品群の一つであると表現することを重視しました。

アース製薬は、「殺虫剤」をやめます。

殺虫剤 → 虫ケア用品

セグメント別構成比と売上の推移(連結)

- 総合環境衛生事業
- ペット用品・その他
- 日用品
- 虫ケア用品





感染症予防に向けた 虫ケア用品

アース製薬は、虫ケア用品を扱うメーカーの責任として、虫ケア用品の正しい知識と啓発に努め、世界の感染症患者が1人でも減るように貢献していきます。

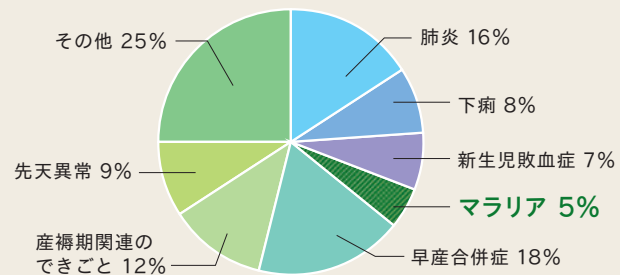
感染症予防に取り組む背景

世界の32億人がマラリアに、128カ国の39億人、世界人口の約50%がデング熱にかかるリスクがあると発表されています。(2018, WHO, UNICEF)

- 毎分1人の5歳未満の子どもがマラリアで命を失っています。
- WHOは2019年、地球規模で注力すべき10の健康危機課題に蚊媒介感染症であるデング熱疾患を掲げました。
- 近年の物流や人々の移動のグローバル化に伴い、熱帯地域の感染症も全世界へのリスク拡大が進んでいます。人の往来が増える東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京2020大会」）でも、日本への輸入感染を含めた蚊媒介感染症のリスクが高まると懸念されています。

出典：https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/dengue-and-severe-dengue

【世界の5歳未満児の死亡原因】



出典：5歳未満児の死亡率(WHO, 2016)
5歳未満児のマラリアによる死亡率(ユニセフ, 2018)
「Child Mortality Report 2018」(ユニセフ, WHO, 世界銀行, 国連) P.18

【人間を殺す生物ランキング(世界)】

- | | | |
|----|----|----------|
| 1位 | 蚊 | 83万人 |
| 2位 | 人間 | 58万人 |
| 3位 | ヘビ | 6万人 |
| 4位 | 犬 | 1万7,400人 |

出典：「The blog of Bill Gates」, October 10, 2016より
https://www.gatesnotes.com/Health/Mapping-the-End-of-Malaria
Copyright 2010 Gates Notes, LLC.



ASEANでの 事業展開

アース製薬がASEANのタイに進出して約40年。当時は平均賃金や衛生意識がまだ低かったことや、国民の90%以上が仏教徒であるため、殺生を嫌うという文化的背景があり、さらに、タイ語で、殺虫剤と農薬が同じ言葉であることから、農薬の誤飲に関する死者が出たというニュースが出るたびに、当社の虫ケア用品に対してネガティブなイメージがつくこともありました。

当社は、約40年間にわたる現地に根付いたマーケティング活動を通して、殺虫剤は農薬とは違って家庭向けに安全に作られているということ、現地にいる300名以上の営業担当者やプロモーション担当者がさまざまな形で啓発し、安心・安全な製品であることを訴え続け、今ではタイにおける殺虫剤シェア11.5%、市場第2位のメーカーになりました。

近年、タイのみならず東南アジア諸国ではデング熱に罹患する人々が増加しています。その東南アジアからの輸入感染を含め、日本やアメリカ、フランスなど世界120カ国以上でデング熱の感染が報告されています。

当社とEarth (Thailand) Co., Ltd.は、SDGsゴール3「すべての人に健康と福祉を」を共通のゴールとしました。SDGsのターゲット3.3の2030年までにマラリアおよび顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶する、に寄与すべく、地元の公衆衛生局や教育省とともに販売および社会貢献活動を通して蚊媒介感染症予防のための正しい知識を広められるよう努めていきます。

日本国内での 事業展開

● 虫ケアステーション

蚊媒介感染症は、人が集まる時、人の移動が多い時、海外への往来が増える時にリスクが高まるため、2020年に開催される東京2020大会に向けそのリスクが懸念されています。

そのことを踏まえ、アース製薬では2018年から虫ケア啓発活動として「虫ケアステーション」をスタートしました。

「虫ケアステーション」は、蚊媒介感染症のリスクを紹介し、虫よけ剤による予防と正しい使い方を提案するための当社オリジナルのブースです。当ブースでは、「サラテクト」を実際に用いながら虫よけ剤の正しい使い方を伝え、時には害虫や被害症例を展示することで

● 小学校出前授業

虫ケア啓発活動の一環として、小学生を対象に「野外での虫対策」と題し、実際に小学校に出向いて授業を行っています。身近な蚊をはじめ、さまざまな害虫の生態について説明し、学校の野外活動や日常生活での虫ケアを子どもたちに知ってもらうことが目的です。今後もこの活動を通して、子どもたちの学習意欲をかき立て、虫ケアについて考えるきっかけづくりの場を提供していきます。



● 2020年にはすべての店頭を「虫ケア用品」売り場へ

虫ケア用品市場の約6割を占めるアース製薬は、東京2020大会のオフィシャルパートナーになっています。「2020の夏も、アースが守る。」というスローガンのも

2020の夏も、アースが守る。



東京2020オフィシャルパートナー
(虫ケア用品、家庭用肥料、培養土及び除草剤)



虫ケアステーション

malaria
NO MORE
japan

マラリア・ノーモア・ジャパン
http://www.malariamore.jp

夏の虫ケア啓発を行います。

これまで、埼玉県飯能市、長野県佐久市、神奈川県横浜市の屋外イベントで実施したほか、延べ43,888名が参加した「グローバルフェスタJAPAN2018」では認定NPO法人マラリア・ノーモア・ジャパンに協力してブースを出展しました。いずれも当社としては初めての取り組みで、多くの関心を寄せられた有意義な活動となりました。

東京2020大会オフィシャルパートナーである当社として蚊媒介感染症対策の啓発は重要な使命であり、少しでも被害の減少に貢献できるよう、今後さらに「虫ケアステーション」による啓発活動を拡大していきます。

と、正しい感染症ケアと製品の安全性の啓発を進めながら虫ケア用品への呼称変更を促し、業界全体として約100億円の市場規模拡大を目指しています。

最終的には、東京2020大会が開かれる2020年までに小売店での店頭表示がすべて「虫ケア用品」となるよう、これからも地道な啓発活動を続けていきます。

● 「蚊ケア指数」を用いて、家庭で虫ケア！

一般財団法人日本気象協会とアース製薬は共同開発の取り組みとして、「蚊ケア指数」の虫ケア予報を2018年5月1日より開始しました。

蚊の虫ケア用品の売上情報と気象情報の過去10年分という莫大な情報の積み上げから、ある一定の法則と予測式を開発しました。蚊ケアの必要度を5ランクに分類し、全国142地点の7日先までの蚊ケア指数を予測、提供しています。また、気象情報と売上の法則を予測し、店頭への販売戦略へ活用することで、気候変動のリスクと向き合い、ピンチをチャンスに変える取り組みに結びつけています。



廃棄物の削減に向けて



アース製薬はあらゆる事業活動に対し、自ら積極的に地球環境保全に配慮し、世界の人々の暮らしに貢献することを目指しています。日用品メーカーとして、限りある資源を大切に、廃棄物の削減に取り組めます。

限りある資源を未来につなぐ。

Re-Styleパートナー企業協定へ調印

アース製薬と(株)バスクリンは2019年より環境省が運営する循環型社会のライフスタイル「Re-Style」活動に賛同し、この活動に参加しています。パートナー企業として「限りある資源を未来につなぐ。今、僕らにできること。」をテーマにした官民連携事業に取り組んでいます。

この活動で掲げる3R活動とは、Reduce(リデュース：減量)、Reuse(リユース：再使用)、Recycle(リサイクル：再生)などの循環型社会に向けた取り組みや考え方のことを指します。当社も、「3R推進月間」や「選ぼう！3Rキャンペーン」に参加し、循環型社会の構築と実現を目指し、廃棄物削減やつめかえ製品の開発、販売促進、資材調達などバリューチェーンを通じた3Rへの取り組みを推進していきます。



協定書



グループシナジーで廃棄物を削減

2018年にアース製薬では、1964年以来、入浴剤市場をけん引してきた粉末入浴剤「バスロマン」を進化させるReborn(リボーン)プロジェクトを実施しました。このRebornプロジェクトの一環として、再生材利用の拡大を図るため、一部製品の容器を金属缶から容器本体に使用している紙部分の約77%に再生パルプを使用した紙容器にしました。この容器の変更には、2012年にアースグループに加わり、すでに紙容器の製品を販売していた(株)バスクリンの技術を導入しました。

また、Rebornプロジェクトを通して「バスロマン」と「バスクリン」の容器を統一し、これまで別々だった生産ラインの一部を一本化しました。これにより、製造工程における電気使用量(原単位)や水使用量の削減など、環境負荷の低減を実現しました。

アースグループはグループシナジーを生かしつつ、資源の有効活用など、環境負荷低減の取り組みを進めています。



バスロマン スキンケア Wミルクプロテイン
バスクリン ゆずの香り

虫ケア用品の返品削減の取り組み

—虫ケア用品業界トップ企業の責務

●返品は利益にも環境にもマイナス

商品の撤去から仕分け、メーカーへの送り返しという一連の作業は、小売業様、代理店様、アース製薬3者における手間とコストが生じる上に、廃棄に伴う環境負荷もかかります。返品削減は長年の懸案でしたが、小売店での売り場を確保するためにまずは商品を送り込み、販売季節が終わった後に返品していただくという業界の慣習がありました。虫ケア用品などの季節商品については、天候に左右されるため需要予測を立てることが難しい分野でもあります。また、欠品による機会損失も避けなければなりません。当社として、需要予測に基づいて返品削減に取り組んできましたが、目立った返品削減には至りませんでした。

●小売業様、代理店様と協力して商慣行を改革

そこで、2017年からアース製薬の製品が店頭に上がるまでの商取引プロセスの中で、小売業様と代理店様の双方にご協力いただき、これまで返品していた製品をそのまま確保いただくようお願いしました。小売業様には、通年で売上のある代表的な虫ケア製品には、冬場でも返品せず店頭においていただいています。代理店様には、傷がついていない正梱の商品については、返品せずにそのまま倉庫で保有していただいています。

また、社内の取り組みを進めるため、営業部門の評価に際して、売上だけでなく返品削減の実績も評価に反映することで、意識改革を促しました。

●2018年の取り組み

返品率の低減に向けて、適正な需要予測による商品陳列の取り組みを継続して実施しています。本格的な取り組みが2年目となり、代理店様や小売業様を巻き込んだ返品削減策が具体的に実行され、営業と代理店様、小売業様との密なコミュニケーションにより適正な需要予測を立てる取り組みを実施しています。

近年は、気温の高い夏が長引くことにより、虫ケア用品の需要にも季節変化が生まれ、年々返品の時期が年末に伸びています。虫ケア用品の季節による需要の変動状況を読み、年間定番品への商品移行を促すなど、小売業、代理店の方との協働は欠かせません。さらなる返品率の低減を目指し、「返品しないことを前提としたオペレーション」の構築という流通改革を進めていきます。

アースグループの削減目標 2020年 **6.8%**

●2018年の返品率は減少傾向を維持

2018年は度重なる台風の発生、局地的猛暑などの天候不順により返品率は上がりやすい状況でしたが、虫ケア用品の返品率は、前年に続き8.5%を維持できました。

SDGsのターゲット12.5「2030年までに、予防、削減、リサイクル、および再利用(リユース)により、廃棄物の排出量を大幅に削減する。」の達成に向けた活動を推進していきます。

(株)バスクリンでの廃棄物削減の取り組み

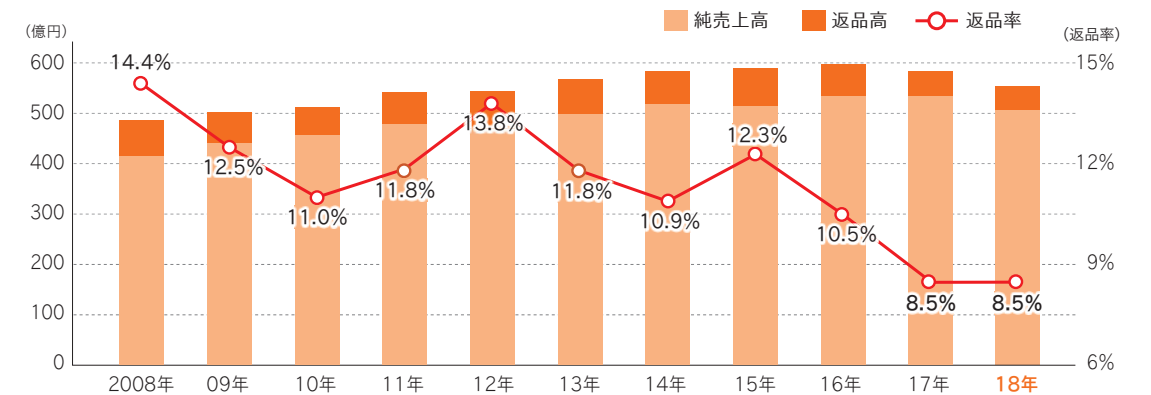
グループ会社である(株)バスクリンの工場では、原材料調達時の包装資材に使われているプラスチックの廃棄削減に取り組んでいます。再生プラスチックが使われている包装資材を選択していますが、その使用総量を削減するとともに、廃棄時には外装の紙袋と内装のビニール袋に分別し、再資源化に取り組んでいます。また、フレキシブルコンテナについては、再利用先の開拓をしました。これらの取り組みにより、廃プラスチック総量60tのうち、28%の17tをリサイクルしました。

(株)バスクリンでは包装資材の削減を進めるとともに、これからは環境に配慮した製品づくりも愚直に進め、地球環境へ貢献してまいります。



(株)バスクリン
三添 貴一郎/林 啓史/石田 富雄

(虫ケア用品)返品率の状況



アース製品のCSR

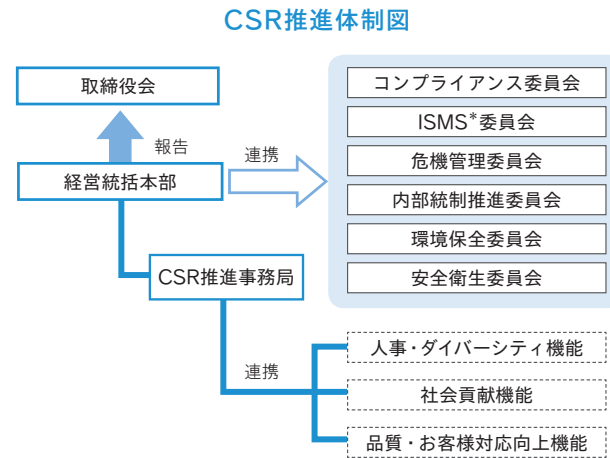
● CSR方針

アース製薬(グループ)は、安全で快適な暮らしの提供を通じた自社と社会のサステナビリティの実現に向けて、あらゆるステークホルダーの立場や目線を尊重し、積極的に対話を行いながら、全社員が参画して真摯に取り組みます。

● CSR推進体制

アース製薬は、CSR方針のもと、環境、社会、ガバナンスの3分野を俯瞰し、CSR活動を効果的かつ円滑に推進していくため、経営統括本部内に「CSR推進事務局」を設置しています。経営統括本部およびCSR推進事務局は、CSR活動に関連する各委員会や、「人事・ダイバーシティ機能」「社会貢献機能」「品質・お客様対応向上機能」との連携を図り、活動内容を社内に共有するほか、活動計画や目標のモニタリングを行っています。

また、CSR推進事務局ではCSR報告書の作成や社内向けのCSR説明会を実施しており、ステークホルダーの期待を踏まえた適切な情報発信に取り組んでいます。



* ISMS : Information Security Management System

● アース製薬のステークホルダー

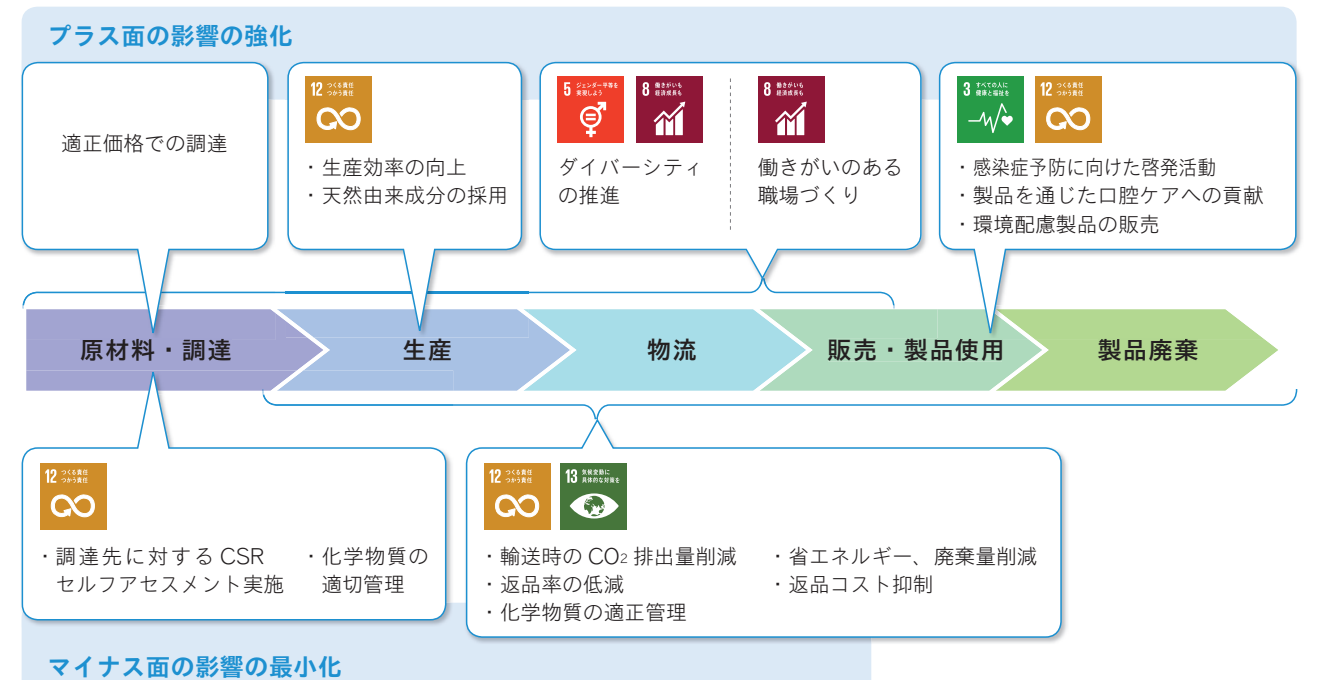
ステークホルダー	アース製薬の主な責任	コミュニケーション方法
お客様 (消費者・取引先)	<ul style="list-style-type: none"> お客様の生命と暮らしに寄り添い、製品・サービスを通じて良質で快適な暮らしを提供することに努めます。 お客様とのコミュニケーションを大切に、いただいた声をより良い経営に生かすことに努めます。 公正な取引に関連する法令や社内ルールを遵守します。 	<ul style="list-style-type: none"> お客様窓口によるサポート 広告宣伝 ウェブサイトなどによる情報提供 営業活動を通じたコミュニケーション
社員と その家族	<ul style="list-style-type: none"> アースバリュー「人がすべて」の価値観に基づき、社員間のコミュニケーションを大切に、社会とともに発展・成長します。 社員が働きがいや、やりがいをもって活躍できる職場を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 社内報・イントラネット 各種研修の実施
サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> 購買方針に基づき、公正に取引先を決定します。また、取引先の皆様にCSR活動を励行いただけるよう、CSR調達を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> 購買活動を通じたコミュニケーション CSRセルフアセスメントの実施
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> 適時・適切な情報開示により、説明責任を果たし、経営理念やビジョン、計画などの理解促進を図り、企業価値が適正に評価されることに努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 株主総会 機関投資家・アナリスト向け決算説明会 個別面談 ウェブサイトなどによる情報提供
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会との共生を目指し、保健衛生の向上、文化・スポーツの支援などに取り組み、社会に貢献します。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域清掃活動 出張教室の実施 各種イベントの開催

● バリューチェーンにおけるCSR活動

アース製薬はCSR活動の推進状況および注力すべきCSR課題を把握するため、取り組んでいる活動をバリューチェーン上にマッピングしています。注力すべき課題については、PDCAサイクルを導入し、目的・目標、取り組み内

容、達成度の確認と活動内容の改善を進めています。

なお、当社が直接関わるバリューチェーンは原材料の調達からですが、その選定や製品が使われた後の廃棄までを見据えた活動を心がけています。



当社が考える「プラス面の影響の強化」/「マイナス面の影響の最小化」として整理しました。

社員のCSR理解促進を目的として、社員向けにCSR報告書を読む会と説明会を実施しています。2018年は本社、赤穂事業所、各支店で説明会を実施し、400名を超える社員が出席しました。

説明会では、CSRの考え方や取り組みの必要性、CSRに関連した世界の動き、アース製薬が注力すべき取り組みなど幅広く説明することで、社員一人ひとりがCSR活動について考え、意識する場としています。

また、説明会後にアンケートを実施し、CSRへの理解度や今後の活動に対する要望などを募り、さらなる活動の発展に役立てています。

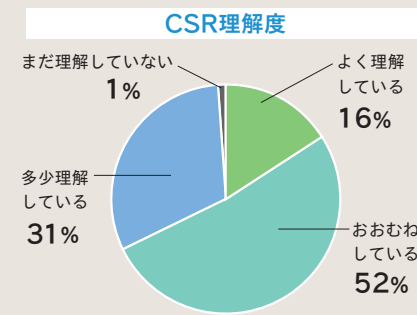


説明会(本社)

Column CSRの 社内浸透

アンケート実施後のコメント(抜粋)

- 会社としてCSR活動をより積極的に進めていくためには、横断的に、しっかり予算を計上した上で、計画的に活動していくことが必要だと思います。
- 今回のような説明会を設けていただくと、企業価値をお客様に堂々と自信を持ってお話しできて良いと思いました。また、そういう会社で自身が働けることにも高い価値を見いだせると感じます。
- 社員その他からの提案を集め、対応あるいは実現しやすくするシステムを作っていたらとありがたいです。
- 報告に加えてCSRを良くするためにどのような目標でどのようなことを具体的に組み込んでいくかという話もあれば良いと思いました。



CSRマネジメントデータ

		中長期目標 (2020年)	2019年 目標	2018年 目標	2018年 実績		
注力する CSR テーマ	虫ケア用品を通じた 虫媒感染症撲滅への貢献	講演会などのイベント参加者数 [名]	-	30,000	400	10,000	
	オーラルケア用品を通じて お口の健康への貢献	講演会などのイベント参加者数 [名]	55,000	6,000	700	2,000	
	季節製品の返品削減	返品率 (虫ケア用品) [%]	6.8	7.7	7.9	8.5	
	地球温暖化防止の取り組み	工場・オフィスなどのCO ₂ 排出量 [t-CO ₂]	8,100	7,889	8,093	7,789	
		物流でのCO ₂ 排出量 [t-CO ₂ /千トンキロ]	0.131	0.130	0.138	0.132	
	働きがいのある仕事と 職場の創出	ワークライフ バランス 実現の取り組み	有休消化率 [%]	78 以上	75 以上	65	74.3
			育児休業取得率 [%]	男女ともに 100	男女ともに 100	男女ともに 100	男性 18.2 女性 100
			育児休業からの復職率 [%]	男女ともに 100	男女ともに 100	男女ともに 100	男性 100 女性 100
			育児休業復職後 12ヶ月経過時点での定着率 [%]	男女ともに 100	男女ともに 100	男女ともに 100	男性 100 女性 100
			介護休業取得数および休業からの復職率 [名、%]	-	-	-	0名
	ダイバーシティの推進	社員の エンゲージメント	社員平均勤続年数* [年]	-	-	-	14.5
			入社後3年間の離職率 [%]	-	-	-	13.6
		ダイバーシティ 推進の取り組み	社員に占める女性の割合* [%]	50	50	50	39.1
			社員採用比率 (男:女)* [人]	50:50	50:50	50:50	67:33
			女性管理職比率* [%]	10	7	7	5.3
			社員平均年齢* [歳]	-	-	-	42.4
			高齢者採用数 [名]	-	-	-	2
高齢者再雇用数 [名]			-	-	-	67	
障がい者雇用率* [%]	2.3	2.3	2.2	2.2			

2017年 実績	2016年 実績	2015年 実績	2014年 実績	補足説明
263	478	-	-	・中長期目標は策定中 ・小学校を中心とした活動
205	-	-	-	・幼稚園・保育園を中心とした活動
8.5	10.5	12.3	10.9	
8,161	6,590	6,264	6,554	・社用車含む ・2017: モンダミン新工場の完成、徳島工場の追加(旧アース・バイオケミカル(株)から移管)
0.139	0.132	0.135	0.138	
63.3	-	-	-	・2018年分として付与した日数に対し、2018年中に使用された日数
男性 14.8 女性 100	男性 8.3 女性 100	男性 0 女性 100	男性 3.8 女性 100	・2018/1/1 ~ 2018/12/31 出生が対象
男性 100 女性 100	男性 100 女性 88.2	男性 100 女性 100	男性 該当なし 女性 90.9	
男性 100 女性 86.7	男性 100 女性 100	男性 該当なし 女性 90	男性 該当なし 女性 100	
1名 100%復帰	1名 100%復帰	0名	2名 100%復帰	・期間: 2018/1/1 ~ 2018/12/31
14.5	14.8	13.4	14.3	・2018年12月31日時点
30.8	25	3.2	3.4	・新卒採用の3年後の状況、2018年集計結果は2015年4月入社が対象
39.6	40.2	41.7	44.1	・2018年12月31日時点
57:43	72:28	67:33	57:43	・期間: 2018/1/1 ~ 2018/12/31
4.9	5.4	4.9	2.7	・2018年12月31日時点
42.5	42.2	40.8	41.4	・2018年12月31日時点
2	2	0	0	・期間: 2018/1/1 ~ 2018/12/31 ・60歳以上
63	61	49	40	・アースで60歳を迎えた新エルダー、契約社員で12/31時点在籍者 ・2018年12月31日時点
2.2	2.2	1.9	1.9	・2018年12月31日時点
77.6	48.3	42.6	43.5	・本社・工場のみ ・2017: モンダミン新工場の完成、徳島工場の追加(旧アース・バイオケミカル(株)から移管)
4,709	5,418	5,597	6,107	
2,701	3,254	2,774	1,689	
21.3	1.5	1.2	1.6	・燃料を除く ・2017: モンダミン新工場の完成、徳島工場の追加(旧アース・バイオケミカル(株)から移管)
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	1	0	・2015年の1件は、アース製薬商品パッケージの表示に対し、一般消費者の誤認を招くとして、不当景品類及び不当表示防止法第6条の規定に基づく消費者庁の措置命令(平成27年2月20日付)を受けた事案
0	0	0	0	
18	25	13	8	・期間: 2018/1/1 ~ 2018/12/31
2.19	2.73	-	-	・期間: 2018/1/1 ~ 2018/12/31
0.03	0.01	-	-	・期間: 2018/1/1 ~ 2018/12/31
4	5	5	3	・2018年12月31日時点
1	1	1	1	・新入社員研修 + その他で実施したもの
33	28	24	14	・上記受講者数
3	10 未満	10 未満	10 未満	・スピークアップ、ホットライン、苦情処理合わせて毎年10件未満
38	32	26	16	・毎年新入社員研修で実施。新入社員のほか、中途採用も受講。 ・2015年までは行動指針研修として実施
0	0	1	0	・コンプライアンス委員会がコンプライアンス違反と認めた件数 ・2015年の違反件数は、上記「製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反件数」の内容と同一
15回 /95.4	12回 /98.8	12回 /97.7	14回 /93.9	
2	1	1	1	

*取締役、執行役員(2018年3月までは役員待遇)、正社員、継続雇用者(嘱託・継続雇用・新エルダー・再雇用)、契約社員(時給除く)、EMALが対象者。
役付取締役、監査役、社外役員、時給者(契約社員・パート・アルバイト)、顧問は対象外。

地球と共生するために



環境宣言



私たちアース製薬は「^{いのち}生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」を基本理念に、あらゆる事業活動に対し、自ら積極的に地球環境保全に配慮し、世界の人々の暮らしに貢献します。

環境基本方針

アース製薬は2007年に定めた環境基本方針に則って環境に配慮した事業活動を行っています。

1. 環境保全に関する法規制・取り決め事項・自主基準を遵守する。
2. 環境に配慮した製品開発、資材調達、生産、物流、販売を行う。
3. 省資源・省エネルギーを推進する。
4. 廃棄物の削減とリサイクルを推進する。
5. すべての従業員が環境保全に高い意識を持ち、自ら社会に貢献できるよう教育・啓発を行う。
6. 地域社会の環境保全に責任ある対応を行う。
7. 環境保全に関する情報開示を積極的に行う。

環境マネジメントシステム

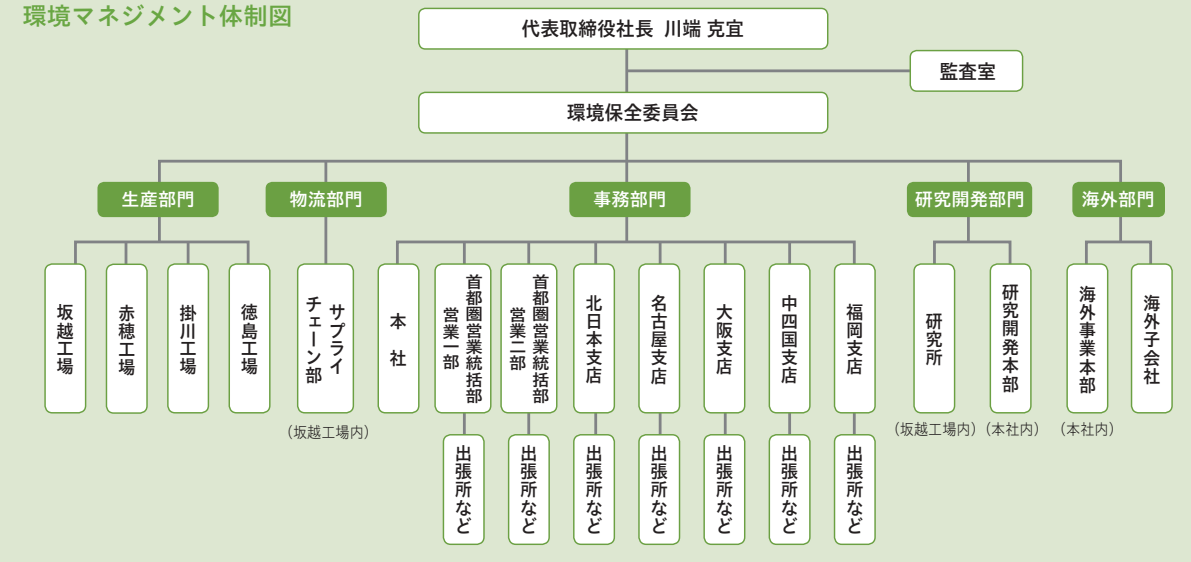
アース製薬では、2007年5月に環境マネジメントに関する全社的な組織を構築し、環境保全の取り組みを開始しました。

その取り組みを強化、継続するため2009年1月に本社・工場で環境省策定の環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証登録を受け、2010年4月には国内全事業所に拡大しました。また、2017年7月に当社の新たな事業所となった徳島工場(旧アース・バイオケミカル(株)から移管)も2018年より運用を開始し、2019年2月に認証登録が完了しました。

マネジメントシステムを運用することで、効果的に取り組み、そして活動の定着を図っています。2018年には、「エコアクション21」の活動を10年継続した実績により、一般財団法人持続性推進機構から表彰を受けました。



環境マネジメント体制図



環境教育

「環境基本方針」に沿って社員一人ひとりが高い意識を持って活動できるよう、全社員を対象に環境教育を実施しています。方針や目標、法規制、環境動向など基本的なことに加えて、各事業所・部署の責任者、担当者の役割に応じた教育も行っています。今後も教育内容を拡充していきます。

内部監査

本社・工場・支店などを対象に毎年、環境内部監査を実施しています。監査ではチェックリストに基づき、取り組みを評価し、さらに相談や意見も受け付けながら、改善につなげています。内部監査の結果、2018年は環境関連掲示物の未更新や環境教育の早期実施が推奨されることが明らかになりましたが、法令違反などにつながる重大な事案はありませんでした。今後一層、監査員の育成と監査の実効性の向上を図り、環境マネジメント体制を強化していきます。

法令遵守

事業活動を行う上で対象となる環境関連法規制は数多くあり、その遵守状況を定期的に評価しています。2018年も違反や関係当局からの指摘はなく、過去10年以上ありません。しかし、法令遵守は最低限の義務であり、常にそれ以上の状態を維持できるよう、社員教育やリスクの把握および対策を行っています。

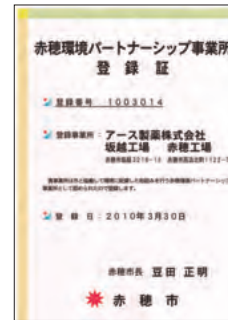
アースグループ内での連携

環境保全の取り組みとして、アースグループ各社がレベルアップを図ると同時に、グループ間の連携強化も行っています。工場・オフィス共通の内容は取りまとめ担当者などが参加する「アースグループ事務局会議」のほか、省エネルギーや廃棄物など工場特有で専門的な取り組みは実務担当者などが参加する「アースグループ環境会議」を設置。これらを通じて、定期的に情報交換を行いながら、具体的な活動をグループ各社に展開することで相乗効果につなげています。

● 地域社会と連携した環境への取り組み

アース製薬の主力工場である坂越工場、赤穂工場、そして研究所(坂越工場内)はいずれも兵庫県赤穂市に立地しています。赤穂市とは「環境保全協定」を締結し、排水などの基準の遵守、履行状況の報告を行っています。また「赤穂環境パートナーシップ事業所」に登録し、赤穂市と協働で、温室効果ガス排出削減などの環境負荷低減に取り組んでいます。さらに、赤穂市内の企業、赤穂商工会議所で構成する「赤穂環境保全協議会」にも加盟し、会員企業と連携した環境保全活動も実施しています。

このように地元の環境保全にも積極的に参画しながら、地域社会との共生を図っています。



環境負荷の低減

●バリューチェーンを通じた取り組み

アース製薬では、環境負荷の低減に向けて、製品開発、資材調達、生産、物流、販売のバリューチェーン全体で、地球温暖化防止、省資源、廃棄物削減、化学物質の削減や適正管理の取り組みを行っています。

資材調達における取り組み

- 地球温暖化防止**
 - 簡易包装（軽量化など）による輸送における温室効果ガスの排出削減
 - トラック単位での調達による輸送効率の向上、納入頻度の減少
- 省資源**
 - リサイクル素材またはリサイクルしやすい素材の調達
- 廃棄物削減**
 - 資材納入時の簡易包装（パレット直積などによる段ボール使用量削減）
 - 容器の共有化によるリニューアル時における廃棄量の減量化

製品開発における取り組み

- 地球温暖化防止**
 - 製品のコンパクト化による輸送における温室効果ガスの排出削減
 - 研究所における省エネ活動
- 省資源**
 - 容器・包装材の減量化
 - 製品のコンパクト化やロングライフ化
 - つめかえ製品の拡充
 - リサイクル素材またはリサイクルしやすい素材の利用
 - 研究所における節水活動
 - 研究所におけるコピー用紙削減活動
 - 研究所における遊休文具の有効活用
- 廃棄物削減**
 - 容器・包装材の減量化
 - 製品のコンパクト化やロングライフ化
 - つめかえ製品の拡充
 - リサイクル素材またはリサイクルしやすい素材の利用
 - 研究所における廃棄物削減活動
- 化学物質削減・管理**
 - 製品で使用する薬剤などの安全性評価
 - 製品で使用するPRTR対象物質の代替・減量化
 - 天然由来成分の利用
 - 研究所で使用する化学物質の適正管理、使用者への安全教育・健康管理
 - 研究所の廃試薬などの適正処分
 - 研究所内での漏えい事故を想定した緊急対応訓練の実施

生産における取り組み

- 地球温暖化防止**
 - 生産効率のアップ
 - 空調・照明・OA機器などの省エネ対策
 - 省エネ機器の導入
 - 「電力の見える化」システムの活用
 - デマンドコントロールシステムの活用
 - 省エネ改善の推進
- 省資源**
 - 歩留まりの改善
 - 工場における節水活動
 - 工場におけるコピー用紙削減活動
 - 工場における遊休文具の有効活用
- 廃棄物削減**
 - 不良率の低減
 - 分別方法の周知徹底・見直し
 - 素材分別による有価物化
 - 排水処理施設における汚泥の肥料化
- 化学物質削減・管理**
 - 施錠保管、入出庫管理
 - 化学物質に関する作業員への安全教育・健康管理
 - 保護具の着用、吸引等防止対策、吸排気設備の設置・整備
 - 取り扱い・管理マニュアルの作成・周知
 - 化学物質のリスクアセスメントの実施
 - 漏えい事故を想定した緊急対応訓練の実施

物流における取り組み

- 地球温暖化防止**
 - 積載効率のアップ
 - モーダルシフト
 - 物流拠点の最適化
 - 物流委託会社との連携
 - 10梱以下配送の削減
- 省資源**
 - 通いパレットの利用（パレットの繰り返し使用）
- 廃棄物削減**
 - 在庫量の適正化による返品対策
- 化学物質削減・管理**
 - 可燃性エアゾール製品の適正保管・輸送

販売における取り組み

- 地球温暖化防止**
 - 営業車にハイブリッド車など低燃費・低排出ガス車の採用
 - エコドライブ・安全運転の推進、啓発（ドライブレコーダーも活用）
 - 効率的なルート選択による営業活動（カーナビも活用）
 - 営業拠点における省エネ活動
- 省資源**
 - 販促物の有効活用
 - 営業活動における説明資料の削減
 - 営業拠点における節水活動
 - 営業拠点におけるコピー用紙削減活動
 - 営業拠点における遊休文具の有効活用
- 廃棄物削減**
 - 代理店・小売店との連携による返品対策
 - 営業拠点における廃棄物削減活動
- 化学物質削減・管理**
 - 薬剤を使用した虫ケア製品の安全性や適切な使用方法を代理店・小売店・お客様に啓発



TOPICS 調達時の環境負荷削減

調達において、生産現場での包装資材使用量の削減を目指し、さまざまな原材料荷姿の仕様変更を行っています。

例えば、以前までは「ブラックキャップ」の製品を調達する際、ピローフィルム*1巻きごとに段ボール包装をしていたことにより、大量の段ボールが不要となっていました。

この問題を解決するため、荷姿を再検討し、パレット上で片段シート（段底面・外周）やストレッチシート、ストレッチフィルムに変更することにより、段ボールの大幅な削減が可能となりました。

*ピローフィルム：ブラックキャップ製品箱の中の製品を覆っている包装材のこと



ピローフィルム

TOPICS エネルギーの「見える化」

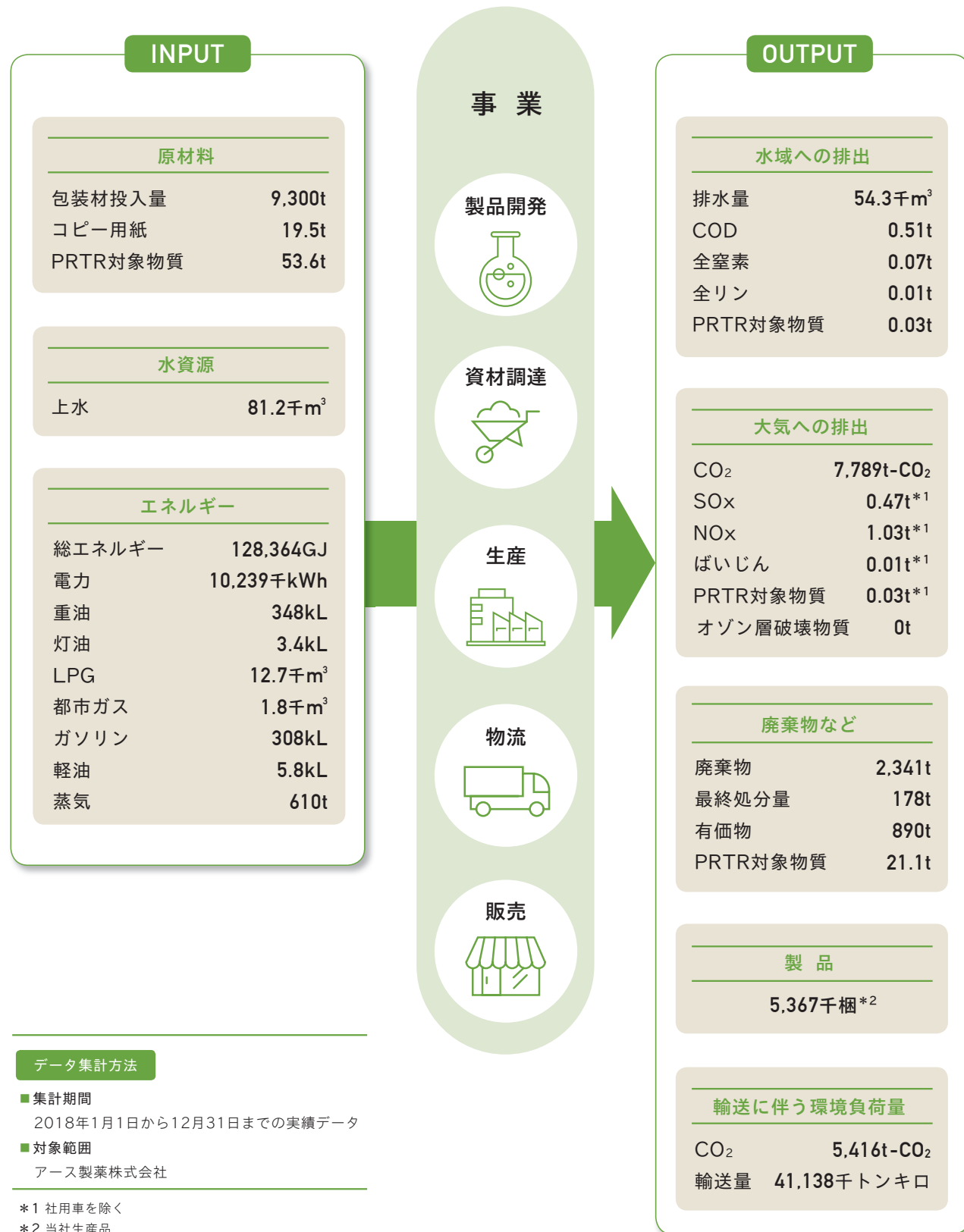
エネルギーの「見える化」で効率的な省エネを実現

アース製薬が使用するエネルギーの大半は工場・研究所で使用しています。その使用状況を詳しく把握することで、効率的、効果的な省エネエネルギー活動が実施できると考え、2013年から2016年にかけて坂越工場・赤穂工場・掛川工場・研究所において、電力使用状況などの「見える化」を図りました。また、当社の新たな工場である徳島工場への導入も検討中です。各部署で実施した省エネ改善は毎月「省エネ推進委員会」で報告、情報共有することで関連部署にも展開し、相乗効果を上げています。



環境負荷の低減

アース製薬では、事業活動における原材料やエネルギーなどの資源(インプット)と、その活動で生じる製品や環境負荷(アウトプット)を、事業活動全体を通じて定量的に把握し、適正に管理するとともに環境負荷の低減に取り組んでいます。



データ集計方法

- 集計期間
2018年1月1日から12月31日までの実績データ
- 対象範囲
アース製薬株式会社

*1 社用車を除く
*2 当社生産品

環境に配慮した製品の開発

● 取り組みの背景

アース製薬では、製品のライフサイクル全体での環境負荷低減を意識した、3R「リデュース(減量)、リユース(再利用)、リサイクル(再生)」の視点で製品開発に取り組んでいます。容器、包装材の減量化、製品のコンパクト化やロングライフ化、つめかえ製品は、省資源や家庭のごみ削減になると同時に、輸送効率も向上し、省エネルギーやCO₂削減にもつながります。また、天然由

来成分や環境負荷が低い素材を使用した製品の拡充も図っています。当社では今後も、お客様のニーズと環境への配慮を両立させたものづくりに取り組んでいきます。



● 環境に配慮したものづくりと製品

設計 3Rの視点での製品づくり

容器を頻繁に廃棄したり、交換しなくても済むようにすることが、お客様の利便性の向上と環境配慮につながると考えています。アース製薬ではつめかえ用製品の販売や、独自の研究を重ねてサイズは同じながらも持続日数が長い製品を販売するなど、省資源とお客様側で出るごみを減らすことに貢献しています。

「バスロマン」は、2018年より従来の金属缶容器から約77%再生パルプを使用した紙へと容器の素材を変更し、サイズもコンパクトにしました。また、香りを濃縮し1回の使用量を従来の3分の2にすることで、容器が小さくても使用回数は約30回にアップしました。また、「保湿入浴液 ウルモア」はつめかえタイプの製品を販売。省資源化を実現し、3R製品の普及を促進しています。そのほかに、「アース虫よけネットEX」「アースノーモットワイド Next Plus+」など一部製品では、ペットボトルなどのリサイクル樹脂を使用しています。



消費 天然由来成分の製品ラインナップを強化

自然志向のお客様のニーズに合わせて、虫ケア用品はいち早く「除虫菊エキス」や「ハーブ」などの天然由来成分を使用した製品開発を行っています。また、ガーデニング用品や家庭用品でも食品成分を使用した製品開発に成功しています。今後も効果と安全性を担保しながら、さらなる安心・安全にこだわった製品設計・開発に注力していきます。



研究開発 省資源化に向けた研究開発

液体蚊とり「アースノーモット」は頻繁に交換しなくてもいいことが利便性の向上と環境配慮につながると考えており、使用日数が長いタイプの取替えボトルを取り揃えています。また、定量噴射方式とマイクロ粒子化技術を応用した「おすだけノーモット」は、従来のエアゾールタイプに比べ噴射ガスを大幅に削減することを実現しました。一度の使用で長時間「害虫を退治する」技術との両立も実現し、生活空間の快適化と環境配慮を両立させています。

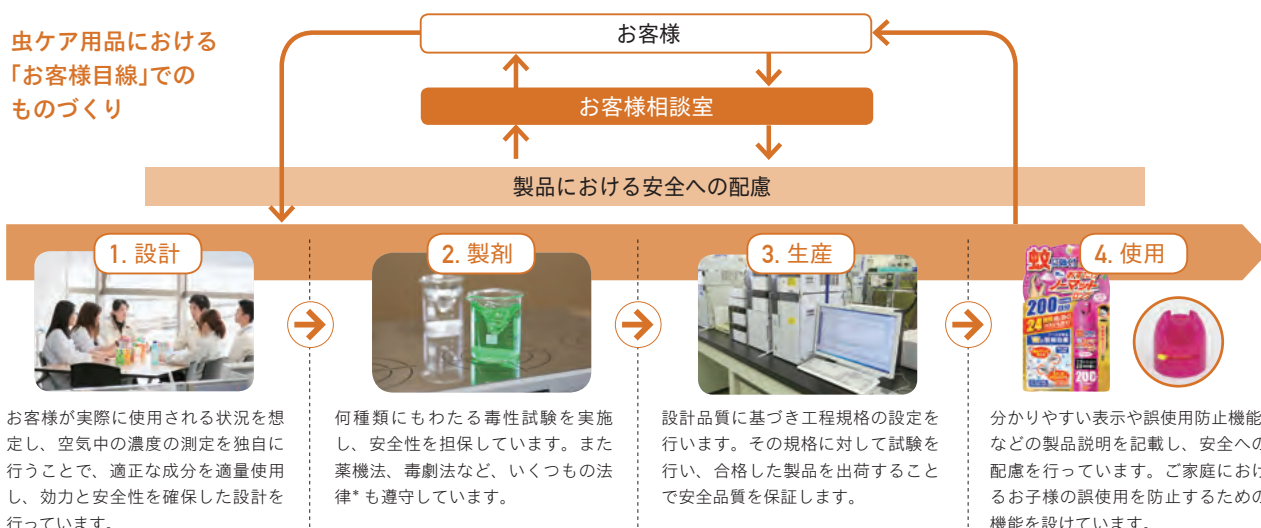


社会と共生するために

お客様目線の取り組み

● 安心・安全への取り組み

虫ケア用品における「お客様目線」でのものづくり



お客様が実際に使用される状況を想定し、空気中の濃度の測定を独自に行うことで、適正な成分を適量使用し、効力と安全性を確保した設計を行っています。

何種類にもわたる毒性試験を実施し、安全性を担保しています。また薬機法、毒劇法など、いくつもの法律*も遵守しています。

設計品質に基づき工程規格の設定を行います。その規格に対して試験を行い、合格した製品を出荷することで安全品質を保證します。

分かりやすい表示や誤使用防止機能などの製品説明を記載し、安全への配慮を行っています。ご家庭におけるお子様の誤使用を防止するための機能を設けています。

*薬機法(旧薬事法)、毒物及び劇物取締法、化学物質審査規制法、化学物質排出把握管理促進法、高圧ガス保安法など

● 品質保証

原材料については、医薬品・医薬部外品・化粧品・雑品などの区分けに応じた適切な試験項目と方法に基づいて評価を行っています。

製品については、法令に基づいた試験項目およびその製品機能に合わせた試験を実施しており、その中で

もお客様が実際に使用される状況を想定した試験項目を設定して評価を行うなど、安心してご使用いただくための取り組みを行っています。

なお、試験データの改ざん防止など、データの完全性を担保するため、一部の試験機器では、ログイン制限・パスワード設定を行い、オーディットトレイル*設定を適用して試験を行います。試験終了後は、一連

TOPICS 工場における品質向上に向けた取り組み

工場の衛生管理については、アース環境サービス(株)の衛生管理事業の強みを生かした防虫・防鼠対策を実施しています。さらに、ネット帽の着用、粘着シートの活用、その場所にふさわしい服装への更衣など、さまざまな取り組みを行っています。生産ラインでは、目視検査やカメラ検査装置・金属検出器などを利用して異物検査を行っており、お客様に安心・安全でより良い製品の提供を行っています。

また、管理者や産業医などによる安全衛生パトロールを定期的実施。社員家族向けの工場見学会を行うことで、自発的な作業環境の改善につなげています。

さらに、QC(品質管理)勉強会や品質監査報告会などを通して工場と品質保証部門が連携することで、品質向上への取り組みを強化しています。



家族の工場見学

のデータの照査を行い、信頼性を確認した後に出荷判定を行う手順の取り組みも始めました。

また、お客様相談室に寄せられるご意見・ご要望を調査して設計部門にフィードバックすることで製品品質の向上を図っています。さらに、品質を維持するため、自社工場については、社内外の品質監査を含めた他部門によるチェックを定期的に行っており、さまざまな視点から品質に関する意見を得ています。

海外を含めた生産委託先については、定期的に品質監査を実施しており、品質改善を図ることでより緊密な協力体制・信頼関係を築き、お客様目線に基づいた品質の確保の考えを共有化して、ものづくりに生かしています。

*オーディットトレイル(監査証跡)：試験データ処理の内容・得られた結果を時系列にそのまま記録されたデータの完全性を確認します。その上で市場への出荷可否の判断をしています。このように不正の入り込む余地のないシステムを用いています。

● 品質改善のために

お客様相談室の取り組み

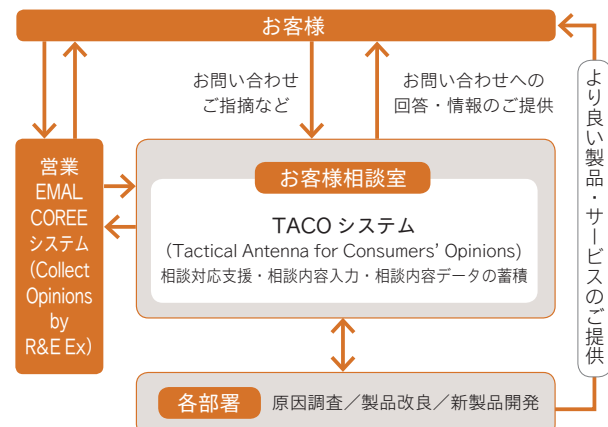
お客様相談室は、お客様相談窓口寄せられるたくさんのご相談やお申し出の一件一件に対して、「迅速」に「公正」に「誠意」を持って応じることで、お客様のお困り事を一緒に解決しています。

お客様一人ひとりのお困り事を解決していきながら、その過程の中で発生する疑問やヒントを社内の関連部署に伝え、新製品の開発と既存品の品質改善に役立てるのもお客様相談室の取り組みの一つです。

お客様の声を反映する仕組み

お客様相談室では、製品の改善やお客様の生活向上に役立てるために、日々窓口寄せられるたくさんのご相談やお申し出を社内外に伝えていきます。そのツールとして、アース製薬独自のお客様対応システム「TACOシステム*1」を構築しています。

また、アース製薬には多くの営業部員や店頭活動部隊



のEMAL(アース・マーチャンダイジング・アクション・レディー)がいます。店頭でお客様目線に立った売り場の構築などをしていますが、その際にお客様から声をかけられ、商品についてご質問やご意見をいただくことがあります。従来、お客様からのご相談やお申し出はお客様相談室に電話や手紙、メールなどでお寄せいただくのですが、店頭で集まるEMAL経由の情報も漏れることなく「TACOシステム」に集約できるシステム「COREEシステム*2」も導入しています。

このように「TACOシステム」に蓄積されたデータをもとに、関連部署にその情報を伝え、より良い製品・サービスの提供に役立てています。また、そのデータから、お客様のより良い生活のために役立つ情報をウェブサイトなどでお知らせします。

お伝えする情報には普遍的なものもあれば、社会の変化に寄り添うべきものもあります。お寄せいただいた情報には、昆虫の触角のように敏感に対応していきます。

*1 TACOシステム：Tactical Antenna for Consumers' Opinionsの略で、昆虫の触角機能のような敏感さで、お客様の声を蓄積し製品戦略に生かしたいという意味で名づけました。

*2 COREEシステム：Collect Opinions by R&E Exの略で、R&E部(Retail&EMAL部)が聞いてきたお客様のご意見を集めたいという意味のシステムです。

お客様の声をもとにした製品

● 蚊とりお香にもつめかえ用の商品を

「アース蚊とりお香」は2018年に新発売した商品ですが、線香と陶器製の専用皿のセットで販売していましたが、お客様から、「陶器の皿は再度の使用が可能なので、ぜひ線香のみの商品の販売してほしい」と多数のご意見を頂戴し、線香のみの商品を発売しました。



アース蚊とりお香 やさしい花露の香り アース蚊とりお香 やすらく森露の香り

● 廃番になった商品を再販してほしい

トイレ用小型エアゾール剤として「アロマパレットトイレミスト」を販売していましたが廃番になりました。その後お客様から再販のご要望をたくさん頂戴し、2018年に「トワイト」のシリーズで「ToWhiteトワイト トイレ用1プッシュデオドライザー」を発売しました。



ToWhiteトワイト トイレ用1プッシュデオドライザー クラッシュシャボン の香り

社員とともに

●アース製薬の人材について

アース製薬は「アースバリュー」で“全員参画、コミュニケーション、人がすべて”の3つを唱えているように人材を中心に考えています。価値観の多様化、テクノロジーの進展、日本国内の人口構造の変化、グローバル化など、当社を取り巻く環境が激変している中、わたしたちの存在意義は新たな価値を生み出していくことだと考えます。そのためには、社員一人ひとりが目標を「見える化」し、向上心を持って業務に取り組むことが必要と考えています。時代の変化を見据えた幅広い視野とチャレンジ精神を持って積極的に行動するよう心がけています。

これらを実現するため、採用、異動により人材を適材適所に配置し、頑張った社員が報われる評価・人事制度を整備することにより、社員のやりがいを引き出します。また、OJTを含む研修制度の構築により、社員それぞれの能力の強化に取り組んでいます。

●多様な人材の活用

ダイバーシティの推進

「人がすべて」という社員共通の価値観のもと、働く仲間の人権と多様性、個人の持つ能力や経験を尊重し、お互いを認め合い、助け合い、鍛え合っていく、働きがいのある職場づくりを推進しています。多様性には、出身地、文化、年齢、経験、好み、性的指向などの違いのほか、それぞれのライフステージの違いも含んだものと捉えています。出身地、文化といった面では、近年特に力を入れているアジア圏の人材を中心に採用を行うことや、海外現地法人社員をグローバルパートナー(技能実習生)として受け入れ、人材交流を行っています。

障がい者雇用の推進

工場、研究所などのバリアフリー化および障がいのある人が使用できる機器を導入し、誰もが働きやすい職場環境をつくることにより、得意な分野において能力を最大限に発揮できるようにしています。赤穂市に所在する坂越工場・赤穂工場では、地元の障がい者施設へ製造業務の一部を委託する「施設外就労」を実施し、障がいのある人たちの「働きたい」を支援しています。

なお、アース製薬における障がいのある人たちの雇用率は2.2%と法定雇用率を遵守しています。今後は、能力を十分に発揮し活躍できる場をさらに提供していきたいと思えます。

シニア社員の活躍推進とキャリア採用の拡大

アース製薬では60歳の定年を迎える社員に対して、希望者全員を継続雇用する新エルダー制度を設け、シニア社員の豊富な経験を定年後もいかに発揮してもらっています。また、ライフプランセミナーの開催や個人面談を実施し、シニア社員のセカンドライフをサポートしています。

キャリア採用では、事業の拡大や新たなプロジェクトに伴い、即戦力として活躍できるスキルや経験を有する人材を、年齢、性別、国籍にかかわらず積極的に採用しています。

●働く環境の整備

ワークライフバランスの推進

仕事は、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすため、一人ひとりがやりがいを感しながら働き、同時に暮らしを充実させることを目指すものだと考えています。アース製薬では、仕事と子育て、介護との両立をする社員が必要な時期に両立を図ることができるよう制度を整えています。2019年からは介護に関わる制度を拡充しました。具体的には、休職期間を93日から366日へ拡大し、積立有給休暇や、ジョブリターン制度を新設しています。また、心身の疲労から健康を害さないよう、メンタルヘルス対策として、ストレスチェックの実施、健康管理システムの導入、産業医(精神科医)による面談が受けられる体制を整えています。

健康経営の取り組み

アース製薬は階段利用の促進や保健指導、スポーツ部活動の支援、また、衛生委員会で各種健康セミナーを開催し、社員の健康と快適な職場づくりを推進しています。



社内での腰痛セミナー

テニス部の活動

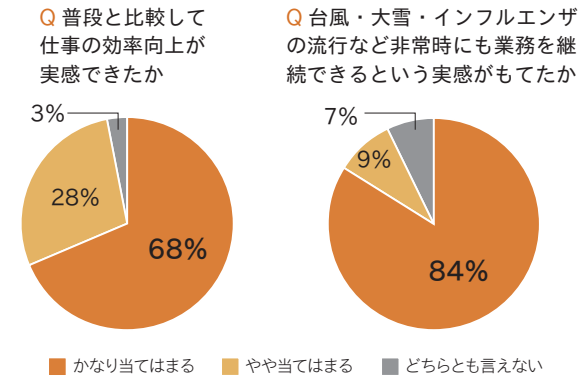
働き方改革の取り組み

2017年から月1回で開始したノー残業デーは、2018年から週1回へと回数を増やし、平均退社率は94%となりました。2019年からは新たな試みとして、本社員を対象としたテレワーク(在宅勤務)をトライアル実施しています。通勤時間が省けることに伴う拘束時間の軽減により、育児や介護、私生活に費やす時間の増加につながります。より働きやすい勤務体系の実現を図るとともに、仕事の効率化と会社運営における生産性の向上を推進していきます。



在宅勤務トライアル実施状況

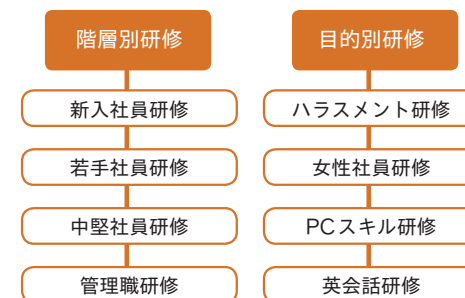
集計期間：2019年1～3月
実施実績：本社12部署38名(延べ実施回数116回)



安全衛生への取り組み

健全で安全な職場環境を実現するため、次のような委員会や部会を設置し、活動を実施しています。

- 安全衛生委員会および衛生委員会
- 安全衛生部会
- 安全運転管理活動
- コンプライアンス委員会(内部通報窓口含む)
- 環境保全委員会



●人材育成

新入社員研修

新たに社会人となる新入社員に対し、ビジネスマナーはもちろんのこと、製品講義、営業研修、製造実習など、ものづくりに携わる一連の業務をすべて経験できるカリキュラムを用意しています。単に知識を頭に入れることだけが目的ではなく、この研修を通じて「働くとはどういうことなのか」「何のために仕事をするのか」「どうなりたいのか」を考えるきっかけとしてもらいます。



新入社員研修

階層別研修

全階層に対応できるような設計を検討し、現状では部長層に対しては「リーダーシップ」、課長層に対しては「コミュニケーション」と「コーチング」の研修を実施しています。部長層および課長層については外部講師を招いて実施しています。これらの外部研修の翌日には社内役員および所属長より管理者に求められる知識や能力を強化する研修を実施します。

若手社員と中堅社員に対しては営業にフォーカスした研修を実施しています。若手社員研修は営業本部と人事部よりプレゼン発表などの内製研修を、中堅社員研修はパソコンのスキルアップを目指し、外部研修を実施しています。さらに赤穂事業所での中堅社員向け研修の実施を検討中です。



中堅社員向け営業研修

女性社員研修・ダイバーシティ研修

多様な人材、多様な働き方という考えを理解し、「さまざまな働き方」を実現するための研修として実施しています。今後は「モチベーションアップ」「キャリアチャレンジ」に注力した研修を実施します。

調達における取り組み

● 調達方針

アース製薬はすべてのお取引先に対し、公正・公平で倫理的な関係性を持続させながら連携を強化します。また、環境や人権に配慮したお取引先とのパートナーシップを構築し、お互いが持続的に発展していける社会の実現を目指します。

● 取引先へのガイドライン周知

この調達方針に沿った社会的責任のある調達活動を実現する為、2017年アースCSR調達ガイドラインを制定、この取り組みに対して理解して頂くため、お取引先様への継続的な説明会を実施しています。

2018年は国内214社、海外13社の計227社のお取引先様を対象としております。

*対象：アース製薬の原材料メーカー・生産委託先

またお取引先に対してCSR調達ガイドラインに基づいた自己判定を依頼し、回答の分析・検討を行い、改善すべきお取引先および項目の洗い出しと改善依頼を行います。

アースCSR調達ガイドライン

- 法令・社会規範を遵守した購買を行います。
- 安心・安全な品質要求を満たす原材料の購買を行います。
- 国内外、実績有無を問わず、公正で公平な自由競争を提供し、適正な購買を行います。
- 人権擁護、環境保全の推進など社会的責任を重視する企業との取り組みを行います。
- お取引先と信頼関係を構築し、相互成長・持続可能な取り組みを行います。

● CSR調達の推進

アース製薬の調達方針およびCSR調達ガイドラインをお取引先に理解していただくため、また、お取引先自身のCSR取り組み状況の再認識と継続的な向上のためにCSRセルフ・アセスメント質問表への回答を依頼しています。

2017年から実施しており、現在、取引額上位8割を占める原材料メーカー・生産委託先へ展開しています。

CSRセルフ・アセスメント質問表 集計結果

項目	得点率分布				
	A (100~80点)	B (60~79点)	C (40~59点)	D (20~39点)	E (0~19点)
コーポレートガバナンス	74%	15%	11%	0%	0%
人権	52%	37%	7%	4%	0%
労働	81%	19%	0%	0%	0%
環境	70%	15%	7%	7%	0%
公正な企業活動	56%	30%	7%	7%	0%
品質・安全性	85%	11%	4%	0%	0%
情報セキュリティ	70%	30%	0%	0%	0%
サプライチェーン	37%	26%	15%	22%	0%
地域社会	67%	22%	7%	4%	0%

これらのご協力をいただいたCSRセルフ・アセスメント質問表の回答・集計結果をもとに、個別面談などでお取引先と結果を共有し、取り組みが弱い部分(特にサプライチェーン関連)の改善やさらなる向上に努めています。

今後、未実施のお取引先に実施するとともに、この活動を継続してまいります。

社外との協働

● 技術協力と共同開発

アース製薬は、害虫忌避をはじめ、各企業と共同で研究・開発を行い、商品の高付加価値化に向けたさまざまなお手伝いをしています。

TEIJIN × アース製薬

帝人フロンティア(株)と共同で、蚊を寄せ付けない防虫素材「スコーロン®」を開発しました。

スコーロン®は特殊な加工を施した生地で、「洗濯20回後でも80%以上の防虫効果維持」を担保しています。虫が触れることで効果を発揮する接触型の虫ケア剤の技術を応用した薬剤を新たに開発し、帝人フロンティア(株)のナノレベルの接着技術を生地に組み合わせることで洗濯耐久性を高めた防虫素材という新ジャンルを切り開きました。



「スコーロン®」
“とまっても、くっついて来ても、逃げていく”

JICAのSDGsビジネス調査に採択

2018年7月19日、「スコーロン®」が、独立行政法人国際協力機構(JICA)の「途上国の課題解決型ビジネス(SDGsビジネス)調査」の案件に採択されました。

この制度は、JICAが日本法人のSDGs達成に貢献するビジネスの提案に基づき、開発途上国におけるビジネスモデルの開発、事業計画の策定ならびにJICA事業との協業事業の可能性について検討および確認を行うものです。

本件では、デング熱の患者が増加しているインドネシアで、虫を寄せつけにくい特殊加工衣類の生産・販売の可能性について調査します。

本調査を通じて、SDGsのゴール3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」に貢献するビジネスの構築を目指します。



JICA インドネシア事務所前にて

アース防ダニ®カーペット

アース製薬がこれまで培ってきた技術をもとに開発された「アース防ダニ®」は、ダニ忌避率90%以上という優れた効力を持った防ダニ加工剤です。カーペットメーカーとの共同開発で防ダニ機能つきカーペットやラグとして製品化し、大手ホームセンターやネット通販などで販売されています。

殺虫成分は含んでおらず、化粧品にも使用される植物由来の成分で構成しているため、人体にやさしく環境にも配慮しています。また、防ダニ剤は直接肌に触れない部分に加工しているため、お子様やペットのいるご家庭でも安心してご利用いただけます。



地域との共生

● 社会貢献活動方針

わたしたちは「^{いのち}生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」を経営理念に、事業を通じて世界の人々に生活の質の向上を提案するとともに、社会貢献活動を積極的に推進し、健康で豊かな社会の実現を目指します。

- アース製薬グループの得意とする「生活」「衛生」を中心とした活動を通して、社会に貢献します。
- 豊かなライフスタイルの実現に向けて、「スポーツ」「文化」「社会福祉」などの活動を支援します。
- 社員一人ひとりが、自ら社会貢献活動に取り組む環境づくりを進めます。

● 事業活動に関連する社会貢献活動

官民協働のオーラルヘルスケア事業への参画

アース製薬は、経済産業省と日本歯磨工業会による初の官民協働事業「オーラルヘルスケア事業」に参画しました。この事業は、アジア新興国市場にオーラルヘルスケアの向上を普及するとともに、「日本ブランド」を構築し、企業の市場の開拓を支援するために2017年よりスタートしました。この事業の一環として実施したタイとマレーシアの歯科政策担当者、歯科医、歯科衛生士などを日本に招いた研修では、当社のモンダミン工場を視察していただきました。今後もモンダミンを通じて、日本のオーラルヘルスケア技術の国際展開に貢献します。

幼稚園や保育園での口腔ケア啓発活動を実施

アース製薬は当社商品の「モンダミンKid's」を使用し、幼少期より口の中の健康を意識してもらうことや、洗口液使用の習慣づけの推進を目的として、全国の幼稚園や保育園に対して口腔ケアに関する啓発活動を行っています。参加園児には、クイズを通して口腔ケアを啓発するとともに、洗口液体験やモンダミンKid's体操によるアースファンの創出を図っています。当社はこの活動を通して、幼少期の早い時期からの予防意識や予防習慣の啓発を推進し、国内の虫歯保有率の軽減に寄与していくとともに、口の中の健康を守るために活動の充実と拡大を図っていきます。

タイでの Dengue 熱予防活動

Earth (Thailand) Co., Ltd.では、タイ陸軍、タイ海軍、保健省、地区公衆衛生局といった政府機関や赤十字、地域のクリニックや大学附属病院、動物病院、チュラロンコン大学などへの寄付を実施しています。2018年にはタイ全土で30名の社員が参加し、43回、商品を寄付しました。現在も虫ケア用品の無償提供を継続しています。2019年以降は、他企業ともタイアップし「Dengue 熱を減らそう!」を目標に、社会問題となっている Dengue 熱の予防に重点を置いた活動を継続していきます。

VOICE

担当者の声

CSR活動は仏教の徳を積む活動(タンブン)と近く、参加してみたいという職員が多く、「もっとCSR活動をしよう」と意欲の高い職員が総務部を中心に増えてきています。

寄付イベントが開催されることもありますが、ボランティアとして積極的に参加し、誇りを感じています。

これからも、Earth (Thailand) のCSRを継続し、活動を発展させていけたら嬉しいです。



Earth (Thailand) CSR 担当 キティクン
Earth (Thailand) CSR 担当 カノクワン

● 社会貢献活動

中国での活動

中国国内で虫ケア用品の認知を拡大するために、スポンサーとして上海や北京のミニマラソンを支援しています。協賛している大会には、社員もランナーとして参加して、大会を盛り上げています。

日本での活動

「千代田区一斉清掃」へ合同参加

アース製薬はCSR活動の一環として毎年「千代田区一斉清掃」に継続して参加しています。

2018年11月で11回目の参加となりましたが、社員計40名が近隣の小学校とともに駅周辺清掃作業を行いました。歩道の植え込みなどには、多少タバコの吸い

殻や空き缶が捨てられていましたが、作業で回収したごみは少なく、地域住民や周辺企業の日頃の清掃活動により、神田周辺の環境はきれいに保たれていることを再認識しました。

初参加の当社社員からは「普段、会社や駅周辺を清掃する機会はないのでとても新鮮でした」「以前から地域貢献活動に参加したいと思っていたため、短時間でも参加できてよかった」といった感想を聞くことができました。

今後も社会貢献活動を推進していくために地域の清掃活動へ継続的に参加していきます。

「トライやる・ウィーク」への協力

兵庫県内の中学生を対象に働く現場について学ぶ機会を提供するために継続的に実施されている兵庫県教育委員会主催の就業体験「トライやる・ウィーク」に協力し、2018年は坂越工場・赤穂工場で8名の中学生を受け入れました。就業体験では実際に「製品の製造業務」や「虫の飼育業務」などを体験していただきました。働くことの意義を考える機会となり、就業体験された中学生からは、「仕事の大変さが分かった」「将来の仕事について考える機会となった」「協力の必要性が分かった」などの声が寄せられました。



生産・検品を体験する学生

● アース・モンダミンカップの開催

大会名に使用している「モンダミン」は、1987年の発売以来、多くのお客様にご愛顧いただいている洗口液ブランドです。「お口の健康を守る」をテーマに、今後も幅広い年齢層の方々にご利用いただきたく、その思いをのせて、生涯スポーツであるゴルフのトーナメント大会名としています。

アース製薬は女子プロゴルフトーナメントであるアース・モンダミンカップを通じて女性活躍推進を支援するとともに、全てのステークホルダーとの共生を実現するためにCSR活動を継続してまいります。



アース・モンダミンカップ

2018年のその他主な活動一覧

実施時期	内容
3月	歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士を対象にした「第1回アース・モンダミンセミナー」を開催
	環境省などが後援する「子どもエコクラブ全国フェスティバル2018」に参加し、「感染症を媒介する危険な虫」「虫よけ剤の正しい使い方」を啓発
	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会と「兵庫県障害者スポーツ応援協定」を締結
4月	「アウトドアアジア東京2018」にブースを出展
	「サラテクト」ブランドサイトを開設し、正しい虫よけ剤の情報を発信 ダニ対策啓発サイト「Danny」をリニューアル
5月	蚊ケア指数を天気予報専門メディア「tenki.jp」で提供開始
	東京都新宿区の花園小学校で「屋外での虫対策」の出前授業((株)学研イノベーションとのコラボレーション企画) 「第16回飯能新緑ツーデーマーチ」に協賛
6月	日本女子プロゴルフ協会トーナメント「アース・モンダミンカップ2018」を開催 警視庁で「蚊による感染症対策」の講演を実施 坂越工場が全国危険物安全協会理事長賞を受賞
	「ストライダーカップ大阪ラウンド」にサラテクトブースを出展 茨城県「なめがたファーマーズヴィレッジ」で農業の安全性に関する講演会を実施 大阪北部地震への被災地支援(製品提供) ・アースノーマット電池式(電池式蚊とり) ・アースジェット(ハエ蚊エアゾール) ・サラテクト 無香料(虫よけ剤)
	『きらいになれない害虫図鑑』を出版
	近畿農政局で開催された「夏休み親子見学デー」で虫ケア講座を開講
7月	西日本豪雨への被災地支援(製品提供) ・アースノーマット電池式(電池式蚊とり) ・アースジェット(ハエ蚊エアゾール) ・アース渦巻香(蚊とり線香) ・サラテクト ウォーターミスト(虫よけ剤) ・モンダミン(洗口液)
	坂越工場と赤穂工場「アース製薬研究・実験ツアー」を開催(学研イノベーションとのコラボレーション企画)
8月	愛媛県河山岳博物館で開催された企画展「家の中のきらわれ生物」で特別講演
9月	「MedPee朝日ドクターフォーラム」にブースを出展
10月	「第12回 国際ガーデンEXPO」にブースを出展
11月	「上天草け〜な健康フェア2018」にブースを出展

信頼を得る ために



コーポレートガバナンス

● 基本的な考え方

アース製菓は、経営理念「^{いのち}生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」に基づき、お客様にとって価値ある製品・サービスの提供によって市場の創造・活性化を図るため、迅速な経営の意思決定、業務執行の監視・監督、コンプライアンスの徹底、適時・適切な情報開示などを行い、各ステークホルダーから価値ある企業として信頼を得ることに努めています。

経営の監視・監督機能の向上に関する取り組み

2018年、経営環境の変化に機動的に対応し、迅速な意思決定と経営における役割と責任の明確化を図るため、取締役の定員数を10名以下とするとともに、取締役の任期を1年に短縮しました。また、執行役員制度を導入し、業務執行における責任と権限を明確にしました。さらに、株主の皆様との価値共有を図るため、社外取締役を除く取締役に対して中長期の成長に向けたインセンティブとして譲渡制限付株式報酬制度を導入しました。

2019年3月には、監視・監督体制における多様性確保に向けて、初めて外国籍の社外取締役および女性の社外監査役を選任しました。こうした一連の取り組みにより、コーポレートガバナンスの充実を図っています。

なお、当社はコーポレートガバナンス・ガイドライン*1を制定し、その内容をウェブサイト上に公開しています。

*1「コーポレートガバナンス・ガイドライン」：
<https://corp.earth.jp/company/governance/pdf/guideline.pdf>

● 業務の適正を確保する仕組みの強化

アース製菓では、会社法および会社法施行規則に基づき、当社グループの業務の適正を確保するための体制を整備し、その基本方針*2をウェブサイト上で公開しています。

また、金融商品取引法に準拠した「内部統制報告制度（J-SOX）」に対応するため、内部統制推進委員会を組織し運営しています。

内部統制推進委員会では、評価対象とする業務プロセスおよび範囲を選定し、当プロセスを分析した上で財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点

を、今後の子孫や社会の利益につながることを考えないと企業価値は向上しません。そのためには、CSRやSDGsにしっかりと取り組み、持続可能性に考慮した事業計画を中長期で組み込み、収益との両立を図っていくのが経営者の役割です。

昨年は、アース製菓の虫ケア用品の売上が、天候の影響などを受けて少し落ち込みました。ただし、これについても今後の経営に生かしていくと明言し、対策を検討しているところなので、かならず挽回できると思います。今後はCSR観点でのリスクをもっと経営判断する場へ上げていくこと、そしてCSRの充実化を図り、さらなる社会貢献を目指し、従業員が実りある人生を得るべく、役員一同コミュニケーションをはかることが、会社の繁栄につながります。

アース製菓は、昨年より取締役の定員数を11名（うち社外取締役2名）から8名（同2名）に絞り、中長期的な企業価値向上に向けて集中的に審議する体制に変更しました。私は、社外取締役という立場で取締役に参加していますが、以前より議論が活性化し、確実にいい方向に向かっていると実感しています。また、取締役の任期も2年から1年に変更したことで、各取締役に緊張感が生まれ、ものごとの決定にスピード感が出てきました。また、取締役会の実効性を評価するために、全取締役を対象に無記名でのアンケートを毎年実施していますが、これもさまざまな意見を吸い上げ、コーポレートガバナンス・コードにのっとった経営を行っていくという意志の表れと感じます。

これからの企業経営は、自社の利益だけではな

message

社外取締役 メッセージ



社外取締役
田村 秀行

を識別しており、その要点についての整備および運用状況を評価することで、内部統制の有効性に関する評価を行っています。

2018年は評価の結果、当社の財務報告に関わる内部統制は有効であると判断し、2019年3月に有価証券報告書

とともに内部統制報告書を内閣総理大臣に提出しました。

なお、内部統制システムの整備に当たっては、関係法令の制定・改訂の動向にも対応し、継続的な改善を行っています。

*2「内部統制システムの基本方針」：
https://corp.earth.jp/company/governance/pdf/ics_policy.pdf

リスクマネジメント

● 危機管理の取り組み

アース製菓は、国内グループ会社も参加した危機管理委員会を年3回開催し、経営危機につながるリスクを未然に防止するための活動をグループ全体で行っています。

また、当社では「危機管理マニュアル」「BCP*1マニュアル」を策定し、社員への危機意識の浸透を促しています。

現在は策定した事業継続計画（BCP）を機能させるためのマネジメント（BCM*2）に注力しています。2018年には、内閣官房国土強靱化推進室が策定した「国土強靱化貢献団体の認証に関するガイドライン」にもとづくレジリエンス認証を取得し、本社や研究所、工場などで災害発生時の対策に取り組んでいます。

*1 BCP：Business Continuity Plan
*2 BCM：Business Continuity Management

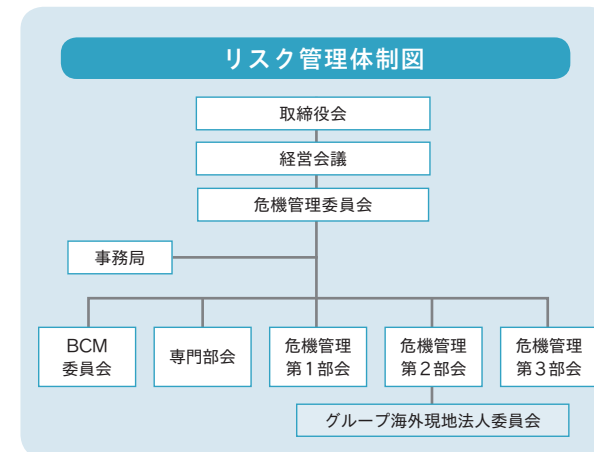
危機管理基本方針

アース製菓並びにアース製菓社員は、様々な経営危機事象発生に伴う「社員の安全」「社会からの信用失墜」「経済的損失」が、経営に重大な支障をきたす可能性を十分に認識し、経営危機事象を未然に防止するために、組織的・体系的な対策を実践します。

また、万が一危機が現実化してしまった場合でも、被害を最小限に留め、当事者・関係者が迅速に判断し行動できるようにするための原則・行動規範として「危機管理基本規程」を明確化・共有化して、対策をここに講じます。

危機管理行動指針

- ① 人命の安全確保を最優先します。
- ② 企業資産の保全を図ります。
- ③ ステークホルダーへの損害を最小限に留め、なおかつ社会的信用を守って企業を存続させるため、事業継続マネジメントを実行します。



● 情報セキュリティの取り組み

アース製菓は、情報システム部にてISMS統括管理を実施し、「情報セキュリティ基本方針」を制定、情報セキュリティの重要性を周知しています。社員に対しては情報漏えいなどの事故につながるリスクを防止するために情報セキュリティ教育を定期的実施しています。毎年、情報セキュリティ管理者、担当者の約100名のメンバーと共に各部署にて研修を開催、個人アンケートと情報資産台帳よりリスクアセスメントを実施しています。また、第三者の審査を受けてISO/IEC27001（情報セキュリティマネジメントシステム）の認証を継続取得しております。ISMS委員会では、年間計画の策定、マニュアルの改訂、外部の第三者監査機関の審査後評価をもとに改善策を話し合うとともに、新人研修にて、ISMSやスマートデバイスのマニュアルをもとにした情報セキュリティの注意点に関する教育を実施しています。



コンプライアンス

● コンプライアンス体制

アース製菓は、高い倫理観を持ち、法令などを遵守するため、当社における行動指針などを冊子にまとめて解説した「アース製菓行動指針および行動指針解説書」を役員および社員（契約社員、派遣社員およびパートタイム社員を含む）全員に対して配布するとともに、社内イントラネットに掲示して会社が重きを置いていることを周知しています。

また、法務部門を担当する取締役を委員長として、組織横断的なコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス上の課題や情報を共有し、全社的に活動を推進しています。2018年は委員会を4度開催しました。コンプライアンス委員会では毎月2回、第一法規出版発行のコンプライアンス関連の情報誌「こんぶらサポート便」を社内イントラネットに掲示し、また、他社のコンプライアンス違反事件などの報道後にはコンプライアンス委員会が作成する「コンプラメモ」を掲示して違反の原因と対策を示し、コンプライアンス意識の向上に努めています。

「コンプラメモ」はおおむね年5回ほど掲示しています。

● アース製菓行動指針および行動指針解説書

アース製菓行動指針は、アース製菓の役員および社員一人ひとりが、企業倫理にのっとった公正な判断をするための尺度を示し、それを実践するためのものです。お客様、社会、市場、株主、働く仲間を5つのテーマとし、それぞれ、「お客様」に対しては、良質で役に立つ製品・サービスを提供することで、常に信頼されるブランドであり続けること、「社会」に対しては、ルールを遵守し、常に公正で誠意ある行動を心がけること、「市場」に対しては、自由な競争を妨げることなく、良質な製品を提供すること、「株主」に対しては正確な情報を迅速に開示するとともに、会社の資産を不正な目的に使用しないこと、「働く仲間」に対してはコミュニケーションを大事にし、全員参画で社会とともに発展し成長することを定めています。また、行動指針解説書においては、行動指針を実践するための遵守すべき法令や事例を記載しています。本指針の改廃は取締役会の承認を得るものとし、入社時に行動指針を受け取ったときには、役員・社員は誓約書に署名し、コンプライアンス委員会に提出します。

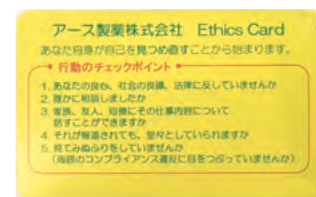
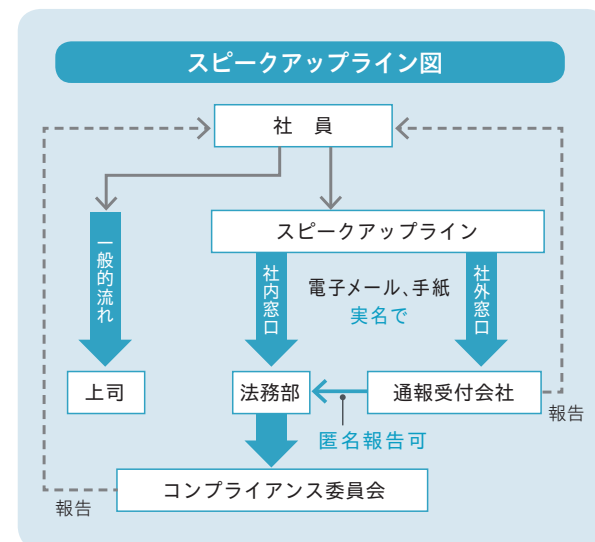
● 内部通報制度概要

アース製菓は、内部通報窓口として「スピークアップライン」を社内と社外の2カ所に設置し、業務に関わる問い合わせやルール違反の恐れがあることをコンプライアンス委員会に通報できる体制を取っています。社外窓口への通報は匿名でも可能です。退職後1年以内の方も利用できます。また、問い合わせや報告をした人が、社内で不利益な処分を受けることがないように保護します。この保護は継続的に実施し、コンプライアンス委員会が監視します。2018年の通報件数は5件ありました。

このほかにも、契約社員用の「ホットライン」や本社、支店および工場において苦情処理委員を任命し、育児やハラスメントなどの相談に応じる体制を取っています。タイの子会社においては、社員が意見や要望を自由に投函できる意見箱を設置しています。



社員からの声を集めるタイのご意見箱



内部通報カード

第三者意見

評価できること

全体を通して、「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」というアース製菓の経営理念が明確に反映された良いレポートだと思います。また、今回は国内外の社員のコメントが掲載されるなど、顔の見える報告書となっているのが特徴です。

トップメッセージにあるように、アース製菓は、2015年9月に国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）が問いかける課題に誠実に向き合っている企業です。SDGsの中でも特に、「健康」「環境」「働き方」に関わる目標を重視しており、それはアース製菓の本業および注力するCSRテーマと合致しています。すなわち、アース製菓にとって、SDGsやCSRの達成は本業そのものであると言えるでしょう。本業を通じたCSRは持続性があり、社会にとって望ましい姿です。アースグループのCSRに対する姿勢を高く評価したいと思います。

「特集1」では感染症予防に向けた虫ケア用品の展開、「特集2」では廃棄物削減の取り組みが紹介されています。今回のレポートで最も注目したいのは、アース製菓の廃棄物削減の取り組みにグループシナジーが発揮されたことです。2018年にアース製菓は、粉末入浴剤「バスロマン」の容器の一部を「金属」から約77%の再生パルプを含む「紙」へと変更しました。これにはグループ企業である(株)バスクリンの技術が導入されたとのこと。また、「バスロマン」と「バスクリン」の容器の統一や生産ラインの一部を一本化したことにより、製造工程において電気使用量や水使用量が削減されました。その他、ここ数年取り組んでいる返品率の削減も成果を上げており、2018年はアースグループ全体として、環境負荷の削減が着実に進展した1年だったと結論づけることができます。

感染症予防に関しては、ASEANでの活動がより活発化したことを高く評価したいと思います。例えば、これまで商品の無償提供を中心に活動してきた



立教大学経営学部教授 高岡 美佳氏

タイで「 Dengue熱を減らそう! 」をテーマに予防活動を実施するなど、グローバル企業体としてのCSR活動の焦点がより一層明確になってきました。アース製菓の理念を踏まえて、社会課題を深く掘り下げることで、引き続きASEANにおいても、業界を牽引していただきたいと思います。

その他、今回のレポートでは、レジリエンス認証の取得、週1回のノー残業デーの設置、介護休職期間の拡大、ジョブリターン制度の創設など、コーポレートガバナンスや社員のワークライフバランスに関して新しい取り組みが多く見られます。市場ニーズへの対応力を高め、アースグループがさらなる飛躍を遂げる企業組織となるためには、コーポレートガバナンスの強化と並んで、人材の有効活用が欠かせません。今後も多様な価値観や社会性をもつ人材が活躍できる環境の整備が一層進展することを期待します。

要望したいこと

現時点でアース製菓のCSRは一定のレベルに達していると思いますので、近い将来にはぜひ、ステークホルダーミーティングを開催し、社外の目を入れてCSRのマテリアリティ（重要性）を特定してはいかがでしょうか。その上で、昨年より公開しているCSRマネジメントデータの評価指標と目標値を精査し、自社資源をより効果的なCSR活動につなげていただきたいと思います。

また、昨年も述べましたが、アース製菓は、主にB to C製品を販売する企業ですので、企業自身が直接的に排出した温室効果ガス（SCOPE1）や間接的に排出した温室効果ガス（SCOPE2）に加えて、バリューチェーン全体で排出した温室効果ガス（SCOPE3）について開示を検討していただくことを期待します。

●編集方針

アース製薬は、さまざまなステークホルダーの立場や目線を尊重し、積極的に対話を行いながらCSR活動を推進することが重要だと考えています。ステークホルダーの皆様とより深いコミュニケーションを取ることで当社の存在意義を明確化することを目指し、CSR報告書を発行し、冊子とウェブサイトで公開しています。CSRについての考え方やCSR活動の進捗と実績を報告するとともに、当社の存在意義の明確化をしています。

本冊子では、2017年に設定した注力するテーマとESGの項目に関する取り組みの進捗と実績を報告するとともに、データの収集と開示を強化し、冊子に反映しています。特集も注力するテーマに沿った内容としています。

この「CSR報告書2019」を通じて、当社ならではのCSR活動を多くのステークホルダーの皆様にご理解いただき、皆様とともに未来を築いていきたいと考えています。

- 対象範囲** アース製薬株式会社
(報告範囲はグループ全体ですが、データはアース製薬単体です)
- 対象期間** 2018年1月1日～2018年12月31日
- 発行時期** 2019年6月
- 参考にしたガイドラインなど**
「GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード (GRIスタンダード)」
環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
「Business Reporting on the SDGs: An Analysis of the Goals and Targets」
「Integrating the SDGs into Corporate Reporting: A Practical Guide」
- お問い合わせ先**
アース製薬株式会社 事業開発部 CSR推進事務局
TEL: 03-5207-7788 FAX: 03-5207-7484

会社概要

名称 アース製薬株式会社
東京証券取引所市場第一部

会社設立 1925年(大正14年)8月26日

資本金 34億7,891万円

本社所在地 〒101-0048
東京都千代田区神田司町二丁目12番地1

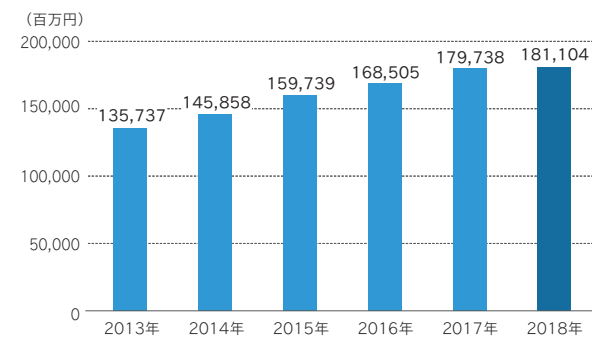
代表者 代表取締役社長 川端 克宜

事業内容 医薬品、医薬部外品、医療用具、家庭用品などの製造販売並びに輸出入

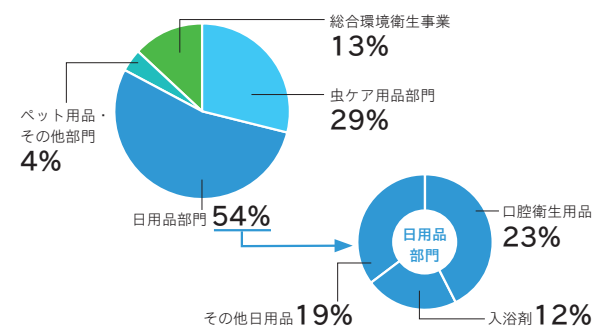


財務情報

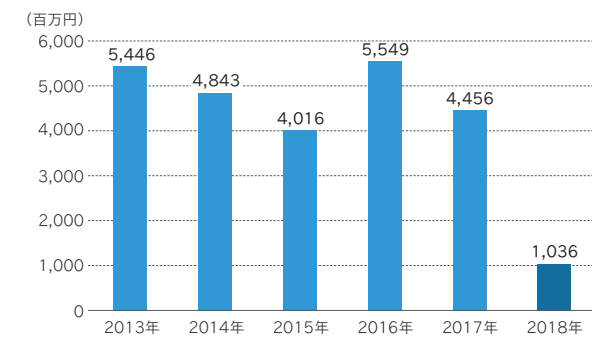
売上高(連結)



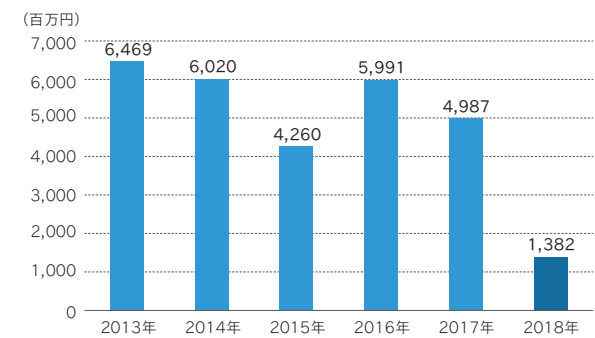
セグメント別売上高構成(2018年)



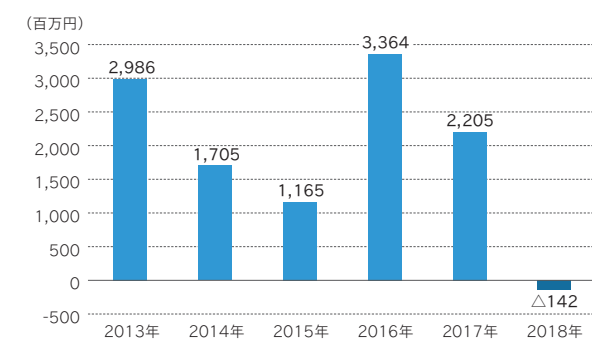
営業利益(連結)



経常利益(連結)



親会社株主に帰属する当期純利益(連結)



人事データ

